平成２８年度全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた

学習指導等の改善・充実のポイント

～「学びに向かう力」をはぐくむ
授業づくり・指導体制の充実に向けて～

兵庫県マスコット　はばタン

兵　庫　県　教　育　委　員　会

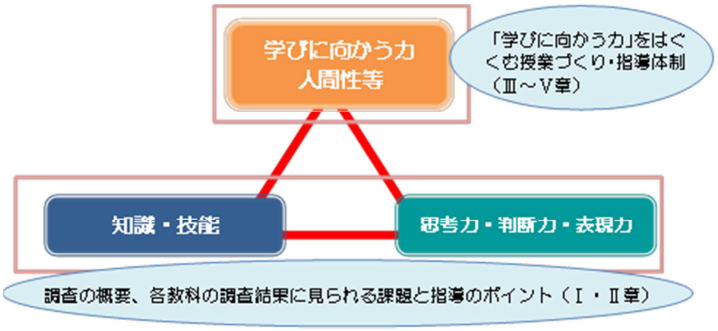
はじめに

本リーフレットは、平成２８年度全国学力・学習状況調査の結果及び次期学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイントについて掲載しています。

Ⅰ・Ⅱ章では、全国学力・学習状況調査における本県の調査結果の概要及び各教科の調査結果に見られる課題と指導のポイントについて掲載しています。今回リーフレットで取り上げた問題や各学校での分析で課題の見られた問題について、課題解消に向けた授業改善を進めることが、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」の育成につながります。

また、学力向上に向けては、課題解消のための取組だけでなく、各教科等において、次期学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた取組を進めることが大切です。

現在、学習指導要領の改訂に向けて、学校教育を通じてどのような資質・能力が身に付くのかを、右図に示す三つの柱に沿って、明確化する作業が行われています。



Ⅲ～Ⅴ章では、次期学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、「学びに向かう力」の育成に向けた授業づくりや指導体制の充実について掲載しています。各学校で重点的に取り組む内容を協議し、できることから着実に進めることが大切です。

目　次

Ⅰ　調査の概要　・・・・・　1

Ⅱ　各教科の調査結果に見られる課題と指導のポイント　・・・・・　2

Ⅲ　「学びに向かう力」をはぐくむ授業づくり・指導体制の充実に向けて　・・・・・１０

Ⅳ　「学びに向かう力」をはぐくむ授業実践　・・・・・２６

Ⅴ　「学びに向かう力」をはぐくむ指導体制　・・・・・３０

Ⅵ　参考資料　・・・・・３４

裏表紙　学びを支え高め合う「新はばタン・モデル」

Ⅰ　調査の概要

①目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
※なお、この調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面である。

②調査内容

ア．教科に関する調査（国語、算数・数学）
・主として「知識」に関する問題（A）
・主として「活用」に関する問題（B）

イ．生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査
・学校に対する調査

③実施日

平成２８年４月１９日（火）

④実施状況（公立小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校）

小学校６年生　７５９校　　中学校３年生　３４７校

⑤教科に関する調査結果（平均正答率の状況）

学年	教科等		本県（公立）	全国（公立）
小学校６年生	国語	知識	７３	７３
		活用	５８	５８
	算数	知識	７８	７８
		活用	４７	４７
中学校３年生	国語	知識	７６	７６
		活用	６６	６７
	数学	知識	６６	６２
		活用	４６	４４

●全国学力・学習状況調査の実施にあたっての留意事項

４月前後に、調査の点数を上げることを主な目的として、授業時間を使って集中的に過去問題を練習させている学校があるとして、今年４月、文部科学省から本調査の趣旨・目的について改めて共通理解を図るよう通知がありました。過去問題について、適切な取扱いをお願いします。

使用場面	取扱いの例	行き過ぎた取扱いの例
授業時間内	・調査の結果として明らかになった学校の課題を翌年度の授業の年間計画に位置付け、改善を図るための一つの方策（材料）として過去問題を活用。 ・調査の結果として明らかになった学級や個々の児童生徒の課題を、年度内に改善を図る一つの方策（材料）として過去問題を活用。	・（数値データの上昇のみを目的として）調査実施前に、テスト形式で、集中的に過去問題を練習。 →その結果として、本来行うべき授業の展開や、児童生徒の理解・定着の促進等の機会を狭めているもの
放課後や長期休業中	・調査の結果として明らかになった学校・学級の課題を、年間の授業計画と関連付けた家庭学習に位置付け、改善・定着を図るための教材の一つとして、過去問題を活用。	

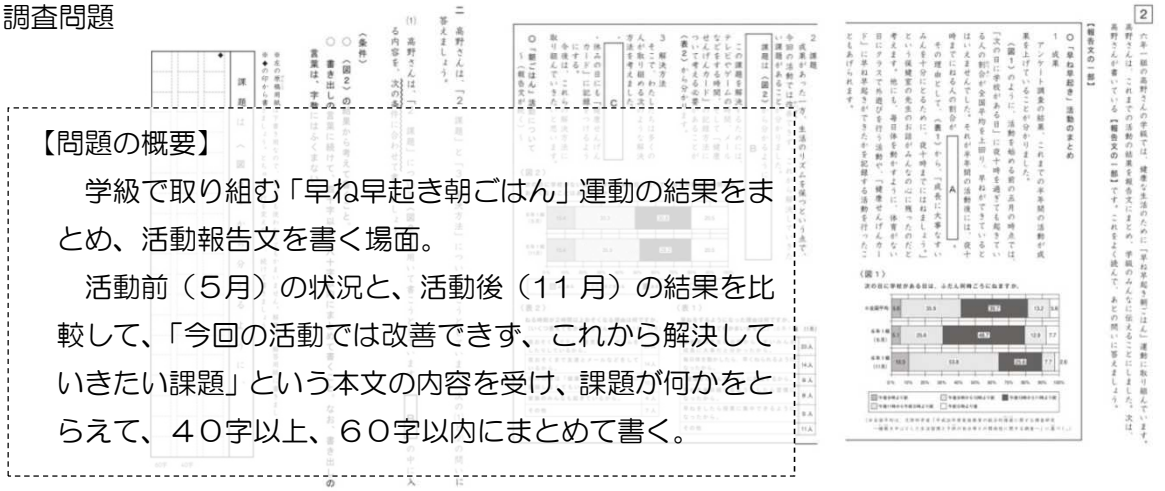
Ⅱ　各教科の調査結果に見られる課題と指導のポイント

1　小学校国語

①　目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くこと・・・【B 2 二（1）】

［正答率：兵庫県４９．５%、全国５１．４%］

調査問題



【問題の概要】

学級で取り組む「早ね早起き朝ごはん」運動の結果をまとめ、活動報告文を書く場面。

活動前（５月）の状況と、活動後（11 月）の結果を比較して、「今回の活動では改善できず、これから解決していきたい課題」という本文の内容を受け、課題が何かをとらえて、４０字以上、６０字以内にまとめて書く。

［本問題に見られる課題］

・「夜十時までにねる人の割合」のみや、「半年間の活動後」のみなど、一部の記述のみに着目し、グラフ内で文章と関連付ける情報を誤っている。

→図表やグラフから情報を正しく読み取ったり、情報を考察し、述べたいこと（目的）に合うよう適切にその情報を用いて記述したりする力が必要である。

指導のポイント

連続型テキスト（文章）と非連続型テキスト（絵・図・表・グラフなど）を関連付けて読んだり、自分の考えを述べたり書いたりする活動を取り入れる。

［課題解決に資する学習活動］　例：４年　「ウナギのなぞを追って」（光村図書４下）

ウナギの産卵時期について、図５から①分かることと②考えられることを分けて、書き出しに続けて［　　］に書く。

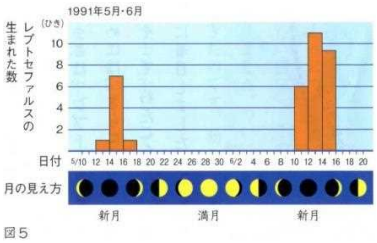


図５

① 分かること

図５から、レプトセファルスのたんじょう日は、［　　］

例　新月のころである。
　　新月の前後である。等

② 考えられること

このことから、ウナギは、［　　］

例　新月に合わせてたまごを産んでいる。
　　新月にかえるように、たまごを産んでいる。　等

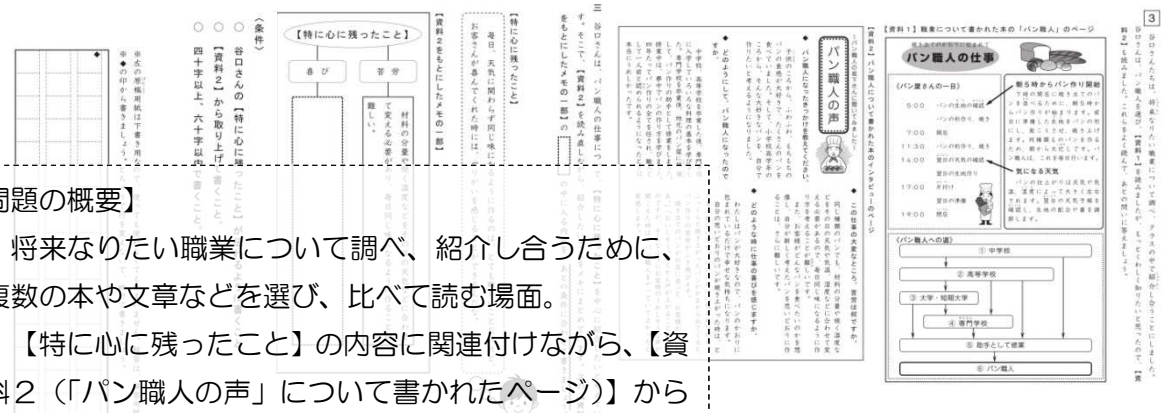
★観察やアンケートなどの結果から分かること（情報の読み取り）と、そこから考えられること（情報の分析・考察）を分けて捉える習慣を付けさせる。

★他教科等においても、非連続型テキストの情報を読み取ったり、資料を用いて自分の考えを表現したりする活動を行うことで、国語科で身に付けた力の定着を図る。

② 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと・・・【B3三】

［正答率：兵庫県５１．７%、全国５２．９%］

調査問題



【問題の概要】

将来なりたい職業について調べ、紹介し合うために、複数の本や文章などを選び、比べて読む場面。

【特に心に残ったこと】の内容に関連付けながら、【資料２（「パン職人の声」について書かれたページ）】から「喜び」について書かれている文章を取り上げて、４０字以上、６０字以内で書く。

［本問題に見られる課題］

・解答の中には【資料２】から取り上げているが、谷口さんの【特に心に残ったこと】にある「お客さんが喜んでくれた時には」という部分を捉えられていないものや、谷口さんの【特に心に残ったこと】は伝わるように書いているが、【資料２】を取り上げていないものがある。

→目的に応じて文章の内容を的確におさえたり、読み取ったことに対して自分の考えを明確にしながら発信したりすることに課題があると考えられる。

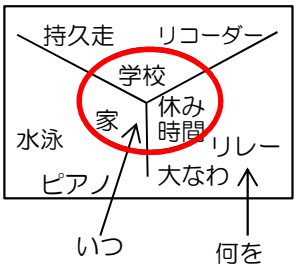
指導のポイント

文章の中で読み取ったことと関連付けて、自分の考えを書く。

［課題解決に資する学習活動］　例：４年　「動いて、考えて、また動く」（光村図書４上）

① 興味を持ったところについて、自分の生活や体験と関連させ、本文中の記述を引用して自分の考えを書く。

・右のようなワークシートや付箋紙を使って、興味を持ったところに関連する材料を構造的に整理する。



② 書いた文章を発表し合い、自分の考えと同じ所や違う所を伝え合う。

・筆者の考えや文章から読み取ったことと、自分の考えや体験などが関連付けられているかを確認する。

★筆者の主張に対して、本文の言葉を用いて自分の考えをまとめる活動を、積極的に取り入れる。

★ワークシートを工夫するなど、必要な部分を引用しながら、自分の立場を明確にして考えを表現するための手立てを取り入れる。

２　小学校算数

①　１を超える割合を百分率で表す場面において，基準量と比較量の関係を理解していること・・・【A 9 （２）】

［正答率：兵庫県４８．６%、全国５０．９%］

調査問題

バスに乗っている人数は６０人です。乗っている人数は，定員よりも定員の２０%分多いそうです。
定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を，百分率を使った次の図に表します。

図の中の ア と イ には，下の４つの数のいずれかが入ります。

ア と イ に入る数をそれぞれ書きましょう。

20	80	100	120

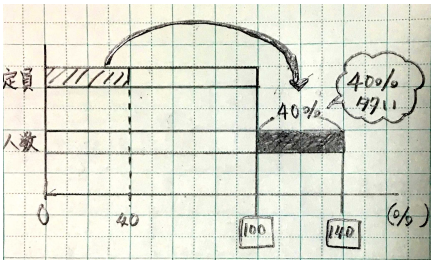
［本問題に見られる課題］

- １を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の数量関係が理解できていない。
- 乗っている人数の方が定員より多いため、乗っている人数を 100%とし、定員を 80%と誤って考えている。
- 数量関係を数直線などの図に表したり、読み取ったりする力が弱い。

指導のポイント

問題場面を理解させ、そのイメージを数直線などの図を用いて表現し、数量の大小関係を捉えさせる。

［課題解決に資する学習活動］　例：５年　割合



- 基準量と比較量の数量関係を捉える際、以下のような表現活動を行わせる。
  - ①　問題文の数値を抽出し、既知の数量と未知の数量を明らかにさせる。
  - ②　基準量と比較量との差を色分けし、視覚化させる。
  - ③　基準量に対する比較量の関係性について、数や言葉、矢印等を図に書き込ませる。
- 系統性を意識し、下学年からテープ図や線分図、数直線等について、数量関係を図に表したり読み取ったりする活動を適宜取り入れる。

［指導系統の流れ］

小学校２年
加法・減法の相互関係を図や式に表す

→ 小学校３年
乗法・除法の相互関係を図や式に表す

→ 小学校５年
小数の乗法・除法について、基準量、比較量、割合の関係を図に表す

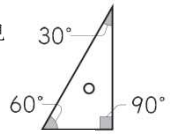
→ 小学校６年
分数の乗法・除法について、基準量、比較量、割合の関係を図に表す

② 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できること・・・【B5（1）】

［正答率：兵庫県　７．１％、全国　６．９％］

調査問題

右のような，30°,60°,90°の角をもつ三角定規があります。
この三角定規を2枚使って，同じ長さの辺をあわせて，次の3種類の図形をつくりました。



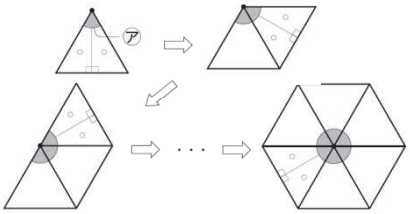
① 正三角形　② 二等辺三角形　③ 四角形

先生

これらの図形の中から1種類を選んで形をつくります。
㋐ ㋑ ㋒ のそれぞれの角が1つの点のまわりに集まるように，選んだ図形を並べていくと，どのような形ができますか。

ゆうた

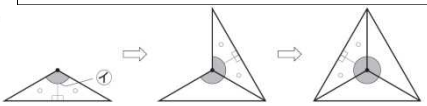
㋐の角が1つの点のまわりに集まるように，①の**正三角形**を並べていくと，6つで，正六角形ができました。



次に，下のように，②の**二等辺三角形**を選んで形をつくります。

かなえ

㋑の角が1つの点のまわりに集まるように，②の**二等辺三角形**を並べていくと，3つで，正三角形ができました。



先生

どうして3つでぴったりつくることができるのでしょう。

かなえ

360÷120＝3で，商が3になり，わり切れるからです。

先生

そうですね。
では，360÷120は，どのようなことを計算している式ですか。説明してみましょう。

360÷120は，どのようなことを計算している式ですか。
言葉と数を使って書きましょう。その際，「360」と「120」が何を表しているかがわかるようにして書きましょう。

［本問題に見られる課題］

- 式や数値を設問と関連付けて読み取れていない。
- ３６０°÷１２０°＝３の式の意味について、被除数は除数がいくつ分入るかを計算している式であることを記述できていない。

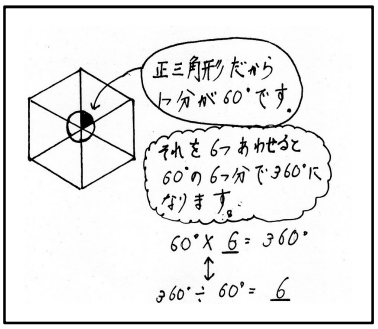
→ 除法の式を、並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味を説明することに課題がある。

指導のポイント

具体物を用いたり，図形を操作したりしながら，図形の性質と式の表す意味を関連付けて考えさせる活動を取り入れる。

［課題解決に資する学習活動］　例：５年　多角形や正多角形

- 角の大きさの導入時に、折り紙とストローを用いて様々な角を作る活動等を通して、角の大きさについて実感を伴った理解を図る。
- 図形を敷き詰めるなど、具体物を操作する活動を通して、図形と式を行き来させながら、図形の性質や式の表す意味を関連付けて考える活動を取り入れる。



［指導系統の流れ］

小学校３年	小学校４年	小学校５年	中学校２年
２本の辺が作る形が角であることを知る	角の大きさを回転の大きさとしてとらえる	図形の性質を用いて、図形を調べたり構成したりする	多角形の角についての性質を見いだす

３　中学校国語

①　語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと・・・【A 9 三ウ、オ】

［正答率三ウ：兵庫県６１．１%、全国５９．３%］

［正答率三オ：兵庫県５４．６%、全国５４．０%］

調査問題

9　次の問いに答えない。

三　最も適切な言葉を（　）の中から選びなさい。

ウ　弟子を手塩に（1　まいて　2　ひいて　③　かけて　4　にぎって）育てる。

・まいて（26・1%）
・ひいて（7・1%）
・にぎって（4・7%）

オ　会場候補として、白羽の矢が（①　立つ　2　刺さる　3　飛ぶ　4　向かう）。

・刺さる（16・0%）
・飛ぶ（24・7%）
・向かう（3・8%）

※正答率はいずれも兵庫県公立

［本問題に見られる課題］

・読書内容に偏りがあり、読書量が増加しても語彙の増加にはつながっていない場合がある。
・ことわざや故事成語、慣用句について、家庭などで耳にする機会が減少していたり、テレビなどで耳にした言葉遣いから、誤った覚え方や使い方をしたりしている場合がある。

指導のポイント

３年間を通して、繰り返し、楽しく、言葉に触れる機会をつくる。

［課題解決に資する学習活動］

・言葉カルタ

３年間を通して、数種類の言葉カルタ（単語帳）を作製し、言葉を学ぶ機会を増やす。
故事成語、四字熟語、ことわざ、慣用句などについて、色画用紙に印刷したものを切り離し、裏面に意味を書き、カルタを作製する。毎年、カルタ大会などを行い、繰り返し使用する。

・故事成語カード

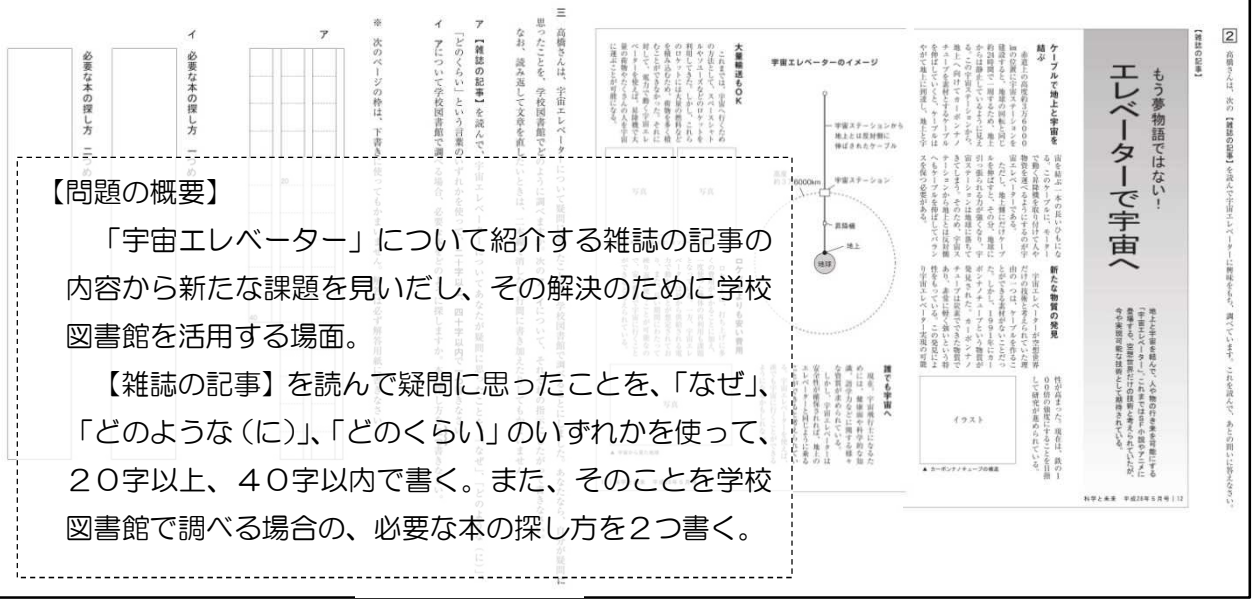
授業で作製した故事成語カードを使って、クイズ形式のゲームにし、楽しく活動させる。

※３年間を通して、授業の始まりの時間を使うなど、モジュール形式で繰り返し取り組むことで定着を図る。

② 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること・・・【B 2 三】

［正答率：兵庫県４５．７%、全国４９．２%］

調査問題



【問題の概要】

「宇宙エレベーター」について紹介する雑誌の記事の内容から新たな課題を見いだし、その解決のために学校図書館を活用する場面。

【雑誌の記事】を読んで疑問に思ったことを、「なぜ」、「どのような（に）」、「どのくらい」のいずれかを使って、２０字以上、４０字以内で書く。また、そのことを学校図書館で調べる場合の、必要な本の探し方を２つ書く。

［本問題に見られる課題］

書かれている内容を理解した上で新たな課題を見いだし、その課題の解決に向けて学校図書館を活用して、どのように情報を収集するかについての知識や経験が不足している。

指導のポイント

本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を取捨選択し、活用する力をつける。

［課題解決に資する学習活動］

【例　根拠を明確にして自分の考えを書く】

１年「根拠を明確にして魅力を伝えよう～鑑賞文を書く」　（光村図書１年）

① 本文を読み、学習目標と見通しをもつ
② 絵画を鑑賞する観点を確認し、作品の具体的な特徴を付箋に書く
③ 学校図書館で絵画に関する書籍を使って情報を収集する
④ 教科書の構成例を参考にして、構成を決め、鑑賞文を書く
⑤ 読み合い良い点・改善点を話し合う

絵画や彫刻に関する書籍や雑誌等を使って、作品の描かれた時代背景や特徴、作者について調べ、鑑賞文を書く際に調べたことと自分の感じたことを組み合わせながら構成を考えさせる。

グループやペアによる話し合い活動を取り入れ、根拠を明確にして魅力が伝えられているかという視点を明確にして、意見を交流する。

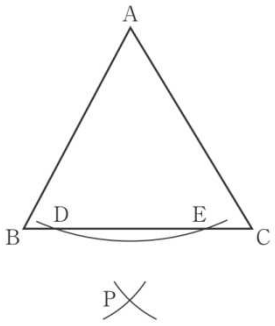
4　中学校数学

①　垂線の作図の方法について理解していること　・・・【A 4 （1）】

［正答率：兵庫県３３．７%、全国３０．９%］

調査問題

次の図の△ＡＢＣにおいて，下の①，②，③の手順で直線ＡＰを作図します。



作図の方法

① 頂点Ａを中心として，辺ＢＣと２点で交わる円をかき，その円と辺ＢＣとの交点をＤ，Ｅとする。
② 点Ｄ，Ｅをそれぞれ中心として，互いに交わるように等しい半径の円をかき，その交点の１つを点Ｐとする。
③ 頂点Ａと点Ｐを通る直線をひく。

この方法よって作図した直線ＡＰについて，左の△ＡＢＣにおいて成り立つことがらを，下の**ア**から**エ**までの中から１つ選びなさい。

ア 直線ＡＰは，頂点Ａと辺ＢＣの中点を通る直線である。

イ 直線ＡＰは，辺ＢＣの垂直二等分線である。

ウ 直線ＡＰは，∠ＢＡＣの二等分線である。

エ 直線ＡＰは，頂点Ａを通り辺ＢＣに垂直な直線である。

［本問題に見られる課題］

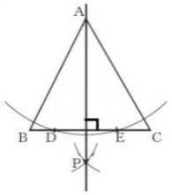
- 具体的に作図の手順を理解していない。
- 作図の手順を理解していたとしても、得られる点や線分の特徴を図形の性質と関連付けられていない。

指導のポイント

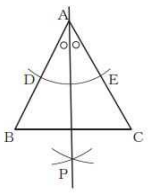
作図の前後に、作図の手順を説明する活動などを取り入れ、性質について理解を深める場面を設定する。

［課題解決に資する学習活動］　例：１年　基本的な作図の方法とその活用

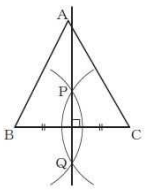
同じ△ＡＢＣで、頂点Ａを通る辺ＢＣの垂線、∠ＢＡＣの二等分線、辺ＢＣの垂直二等分線、頂点Ａと辺ＢＣの中点を通る直線を作図したものを示し、以下の活動を行う。



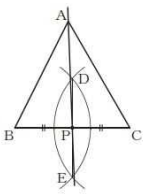
頂点Aを通る辺BCの垂線



∠BACの二等分線

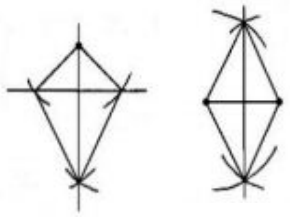


辺BCの垂直二等分線



頂点Aと辺BCの中点を通る直線

①どんな直線を作図しているのかを考える。
②「ひし形」などの図形の性質、図形の対称性を関連付けてそれぞれの作図について説明する。
③どの手順にどんな意味があるのかを説明する。
※コンピュータを利用して、△ＡＢＣの形を変え、どのような場合でも、②、③が説明できることを確認する活動に取り組ませることも有効である。



［指導系統の流れ］

小学校３年 定規やコンパスを用いて三角形を作図する
→ 小学校４年 平行や垂直な２直線を作図する
→ 小学校５年 合同な図形を作図する
→ 小学校６年 線対称の図形を作図する
→ 中学校１年 図形の性質に着目して作図する

② 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができること・・・【B6（２）】

［正答率：兵庫県１６．８%、全国１５．４%］

調査問題

美咲さんは，数当てゲームを行うために，次の**手順**を考えました。

手順

① 最初に数を１つ決める。
② ①で決めた数に１０をかける。
③ ②の数から８をひく。
④ ③の数を２でわる。
⑤ ④の数に１４をたす。

この数当てゲームは，手順通りに求めた数（⑤の計算結果）を教えてもらい，その数から，最初に決めた数（①で決めた数）を当てる遊びです。

美咲さんは，この数当てゲームを優太さんと行いました。

美咲さんは，手順通りに求めた数が３０であることから，優太さんが最初に決めた数は４であることを当てました。どのようにして当てることができたのか，文字を使って，その方法を考えます。

最初に決めた数をａとして，左の**手順**にしたがって計算すると，次のようになります。

① 最初に決めた数をａとする。
② ａ×１０＝１０ａ
③ １０ａ－８
④ （１０ａ－８）÷２＝５ａ－４
⑤ （５ａ－４）＋１４＝５ａ＋１０

最初に決めた数をａとすると，手順通りに求めた数は５ａ＋１０という文字式で表されます。手順通りに求めた数５ａ＋１０から最初に決めた数ａを当てる方法を説明しなさい。

［本問題に見られる課題］

与えられた式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明する力が弱い。

→手順通りに計算した結果を用いればよいことは理解しているが、その用い方を一般的に説明する力が弱い。

（誤答例） ５ａ+１０＝３０ これより、ａ＝４になる

指導のポイント

問題解決の方法について数学的に説明する活動を充実させる。

［課題解決に資する学習活動］ 例：２年 文字を用いた式の四則計算

学習活動の中に、数学的に考察する場面やペア、グループなどの話し合い活動の場面を設定し、問題を解決する方法を数学的に説明する活動を充実させる。

【数学的に考察する場面 例】
３けたの自然数があります。
その自然数の各位の数の和が３の倍数になるとき、もとの自然数も３の倍数になります。
このことを文字を用いて説明しなさい。

［指導系統の流れ］

小学校３年 未知の数量を表す記号として□を用いる
→ 小学校４年 変量を表す記号として□や△を用いる
→ 小学校６年 ａやｘなどの文字を用いて式に表す
→ 中学校１年 文字を用いて数量の関係を式に表す
→ 中学校２年 文字を用いた式の意味を読み取る

Ⅲ　「学びに向かう力」をはぐくむ授業づくり・指導体制の充実に向けて

1　「学びに向かう力」について

これから子ども達が活躍する未来では、

◆直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考えること

◆主体的に学び続けて自らの能力を引き出すこと

◆自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくこと

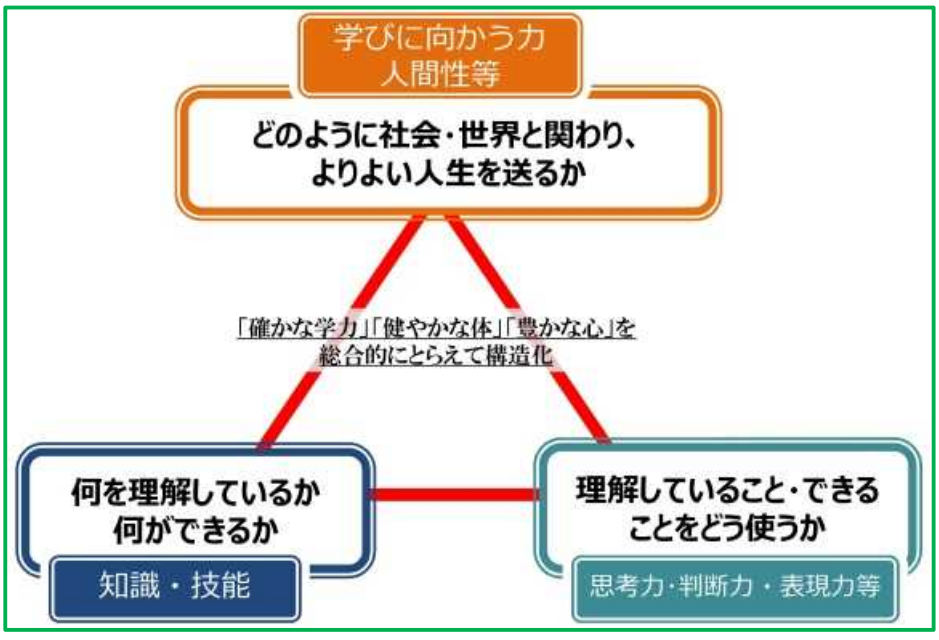
が求められます。

現在、学習指導要領の改訂に向けて、学校教育を通じてどのような資質・能力が身に付くのかを、以下の三つの柱に沿って、明確化する作業が行われています。

①生きて働く「知識・技能」の習得

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養



※新しい大学入試制度（現在の中学校２年生から導入）でも
「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」についての評価を重視する方向で検討がなされています。

クラスの中を見渡してみると、こんな子ども達はいませんか？

ただ何となく勉強している

できれば勉強から逃げだしたい

高校受験のために仕方なく勉強している

目的意識を持って前向きに学習に取り組んでいる子どもばかりではなく、様々な子ども達がクラスの中にいることでしょう。

全ての子ども達に、「わかった・できた」などの達成感、勉強と生活とのつながり、課題解決に向けた意欲、学び合うことの意義や良さなどを実感させることが大切であり、こういった積み重ねが、変化の激しい社会においても主体的に学び続けることのできる力の育成につながります。

〈イメージ図〉

本リーフレットでは、将来にわたって必要とされる「学びに向かう力」の育成に向けて、「授業づくり」「学習習慣の定着」「学習集団の形成」「指導体制の確立」の４つの視点から方策を提示します。

学びに向かう力をはぐくむ

授業づくり

- 「分かる」の積み重ねを重視した授業づくり
- 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善
- 総合的な学習の時間の充実

学びに向かう力をはぐくむ

学習習慣の定着

- 学校と家庭での学びをつなぐ学び方の指導
- 家庭と連携した学習習慣の確立

学びに向かう力をはぐくむ

学習集団の形成

- 互いの良さを認め合い、自分の考えを伝えたいと思える集団づくり

学びに向かう力をはぐくむ

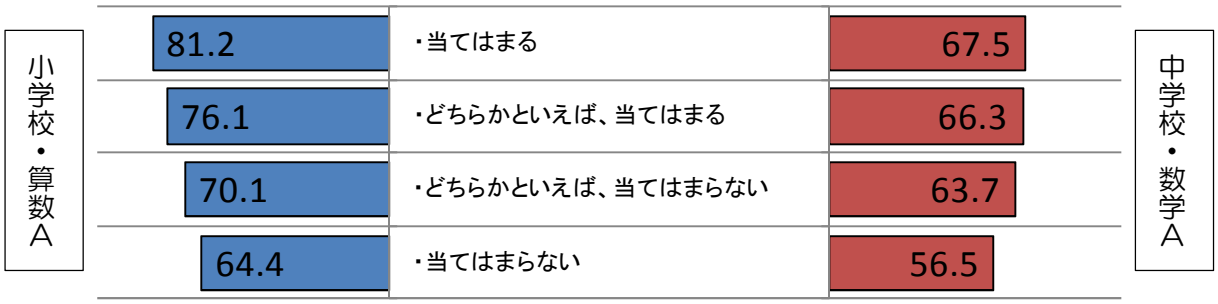
指導体制の確立

- 学ぶ意義や目的を見いだすキャリア教育の充実
- 教科横断的な視点に立った「カリキュラム・マネジメント」の実現

２　「学びに向かう力」をはぐくむ授業づくり①
～「分かる」の積み重ねを重視した授業づくり～

【児童生徒質問紙】授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

★選択肢毎の平均正答率（算数Ａ・数学Ａ）



※平成２８年度全国学力・学習状況調査（兵庫県公立、以下同じ）

〇導入を工夫し、児童生徒が学びたいと思える「めあて」が設定されていますか？
〇振り返りの時間を確保し、児童生徒が「分かった」「楽しかった」という実感を持って、授業を終えることができていますか？

学習内容が「分かる」という実感の積み重ねが自信につながります。また、「分からない」ことを素早く把握し対応することが自信回復につながります。教職員間の共通理解のもと、「見通し・振り返り活動」の質の向上を図る取組を進めることが大切です。

①適切な「めあて」の設定に向けて

授業者のねらいを一方的に子どものめあてとして押し付けていませんか？
「めあて」は授業のゴールに向けて、児童生徒の道しるべになるものです。導入を工夫して、児童生徒の興味・関心や疑問をもとに「めあて」を設定したり、前時までの復習を本時の「めあて」につなげたりすることで、授業者の教えたいことを児童生徒の学びたいことに変えることができます。

授業にあたっては、

①「めあて」の提示につながる導入の工夫
②児童生徒が学習の見通しを持たせる「めあて」の設定
③授業のねらいに迫る「めあて」の設定

などの視点で内容を吟味し、適切な「めあて」の設定につなげましょう。

②「振り返り」の時間の確保と工夫

授業者が計画的に「振り返り」の時間を確保する授業計画を立てることが必要です。次のことに留意して、「振り返り」の活動を充実させましょう。

ア　振り返りにつながる板書・ノートの工夫

めあてから振り返りまで学習の流れが分かる板書の工夫やノート指導をすることで、振り返りをより充実させることができます。

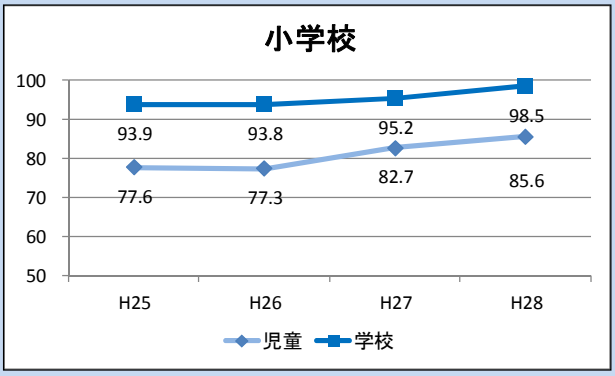
イ　教科等の特性に応じた振り返りの時間の工夫

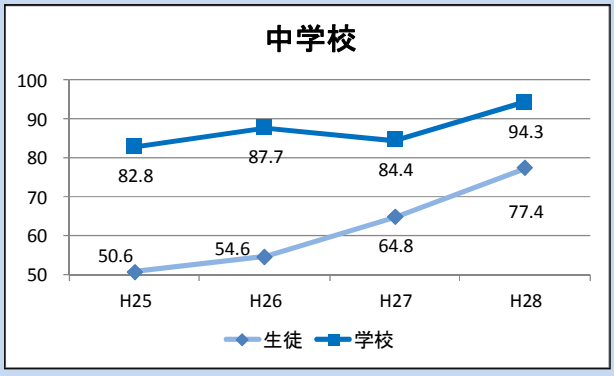
授業者がめあてを意識した振り返りの視点を児童生徒に提示し、そのことについてノートや振り返りカードに書いたり、話し合いをしたりするなど、振り返りのかたちは様々です。また、算数・数学では適用問題をして自信を深めさせるなど、教科等の特性に応じた振り返りが考えられます。

ウ　児童生徒の自己評価と次時への動機付け

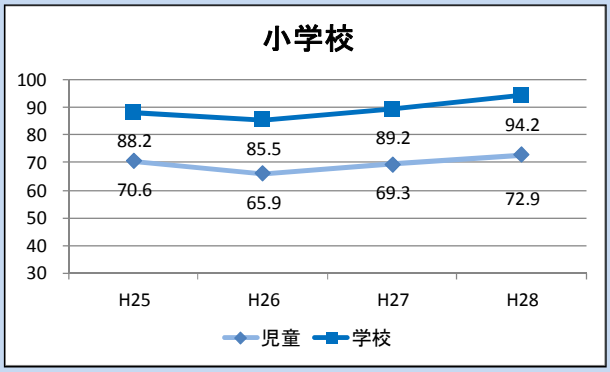
振り返りは児童生徒の自己評価の機会です。「分かった」ことだけでなく、「分からなかったこと」「もっと調べたいこと」等も取り上げることが大切で、そのことに対する授業者の適切な指導と評価が、つまずきの早期解消や次時への動機付けにつながります。

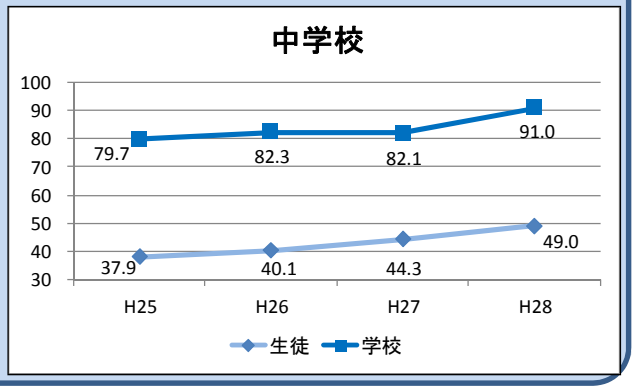
●授業の中で、「目標（めあて・ねらい）を示す活動」を行うことについては、学校と児童生徒との意識の差が、縮小する傾向が見られています。





●授業の終わりに「振り返る活動」を行うことについては改善傾向にあるものの、学校と児童生徒との意識の差には、改善傾向が見られていません。

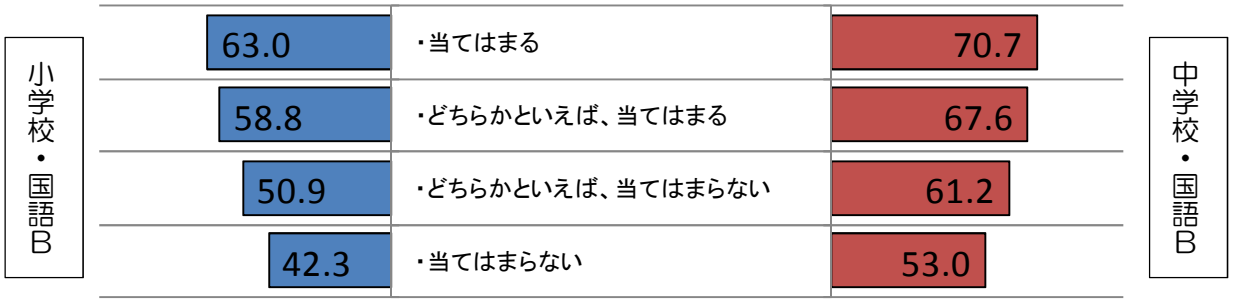




３　「学びに向かう力」をはぐくむ授業づくり②
～「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善～

【児童生徒質問紙】先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか

★選択肢毎の平均正答率（国語Ｂ）



○「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善は、授業の中でペア学習やグループ学習を取り入れたら良いだけと思っていませんか？
○すべての児童生徒が活動できるような工夫はされていますか？

このパターンの授業をしたら「アクティブ・ラーニング」だと型にはめることは避けなければいけません。目の前にいる児童生徒の課題は様々であり、身に付けさせたい資質・能力も違います。授業者は資質・能力を身に付けさせるため、よりよい授業の在り方を問い続けることが大切であり、その問う視点となるのが、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」であり、どれが一番大事ということはなく、互いに関わり合っています。

「アクティブ・ラーニング」って、何か新しいことをしなければならないの？

新たに時間を設けて何かを行う必要はありません。例えば、社会科において課題を追究し解決する活動、理科において観察・実験を通じて課題を探究する学習、美術における表現や鑑賞の活動など、全ての教科において充実が図られてきたこうした学習を、「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善することが大切です。

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

主体的な学び

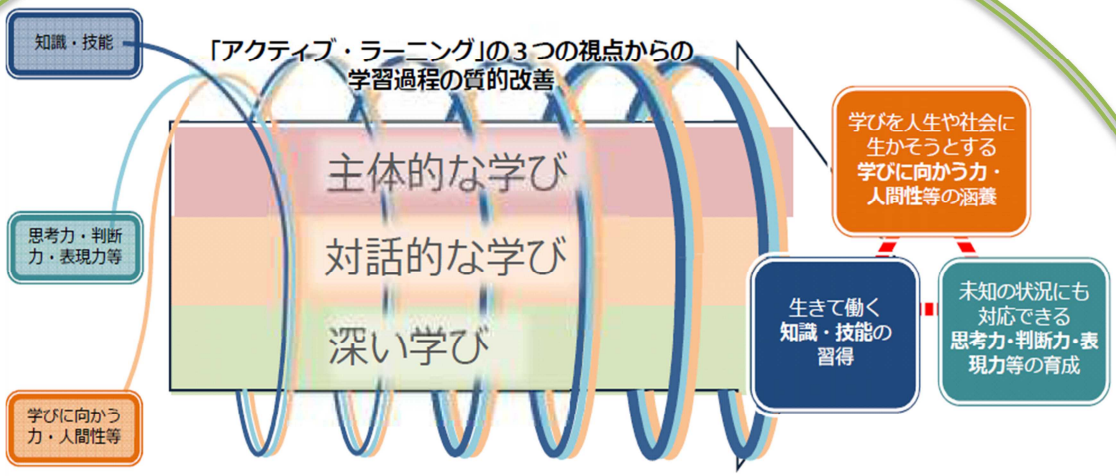
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自ら学習をまとめ、振り返り、次の学習につなげる。
- 「キャリアノート」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする。

対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで、自らの考えを広める。
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。
- 子ども同士の対話に加え、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る。



各教科等で習得した概念（知識）や考え方を実際に活用して、問題解決に向けた探究を行う中で、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮される場面を設定することが大切です。

深い学び

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

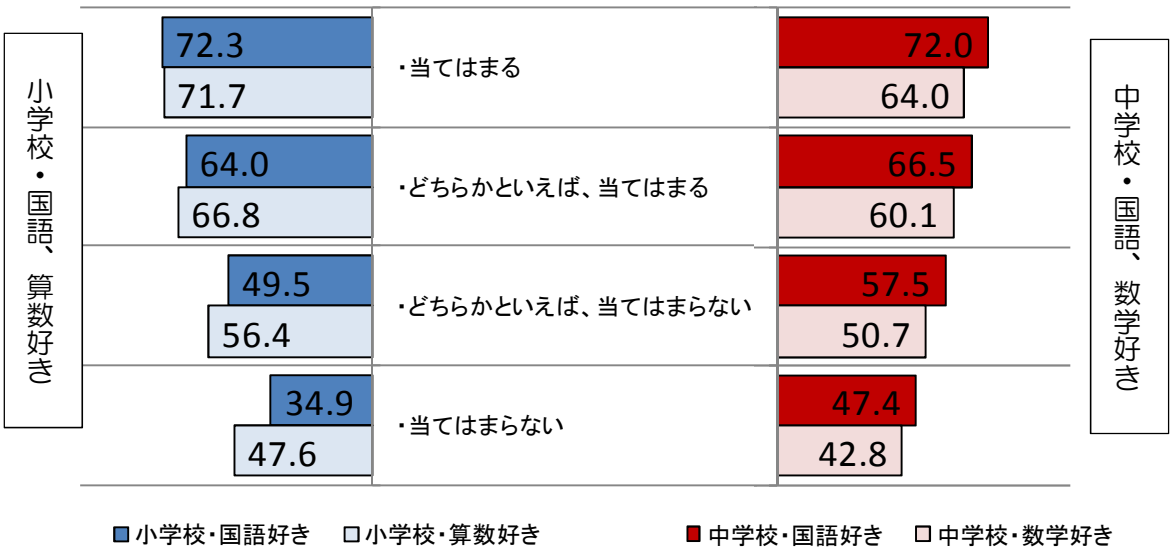
- 事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む。
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して、手段としての考えを形成したりしていく。
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく。

出典：「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」文部科学省（平成２８年８月）

4　「学びに向かう力」をはぐくむ授業づくり③
～総合的な学習の時間の充実～

【児童生徒質問紙】「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

★選択肢毎の「国語、算数・数学が好きですか」という質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合



○各学校において、地域や児童生徒の実態等に応じて、総合的な学習の時間の目標に即した取組が進められていますか？

【総合的な学習の時間の目標】
横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

各教科等で知識や技能を習得・活用し、総合的な学習の時間において、実際に課題を探究する活動を行うことで、知識や技能が生きて働くものとなります。また、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が各教科等の学習意欲を高めることにつながります。

総合的な学習の時間の充実に向けて

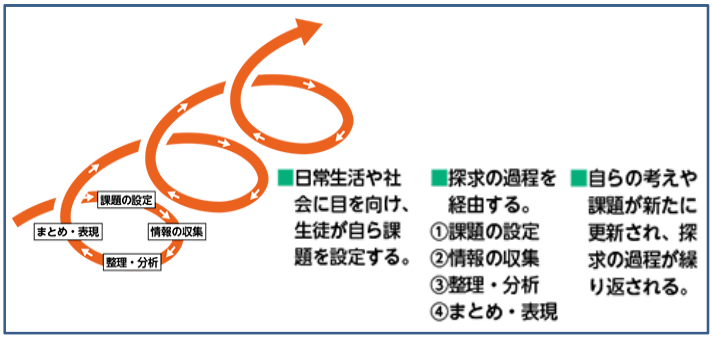
総合的な学習の時間を充実させるためには、①問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習とすること、②他者と協同して課題を解決する協同的な学習とすることが重要です。加えて、③体験活動を重視するとともに、④思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実を図ることも欠かせません。

さらには、⑤各教科等との関連を意識した学習活動を展開することなどを踏まえ、学習指導を行うことが大切です。

①探究的な学習

探究的な学習とは、下図のような問題解決的な活動が、発展的に繰り返されていく一連の学習活動です。

こうした探究の過程は、およその流れのイメージであり、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、学習活動のねらいや特性などにより順序が前後する場合もあります。



②協同的な学習

総合的な学習の時間では、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視しています。

協同的な学習は、多様な考え方をもつ他者と適切にかかわり合ったり、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度の育成につながります。

③体験活動の重視

総合的な学習の時間では、体験活動を適切に位置付けた横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う必要があります。

④言語活動の充実

思考力・判断力・表現力等の育成を図る上で、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることを、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることが大切です。

⑤各教科等との関連

各教科等での学習活動の成果が発揮されることで、総合的な学習の時間は充実したものになり、総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力及び態度を各教科等で生かしていくことも大切です。

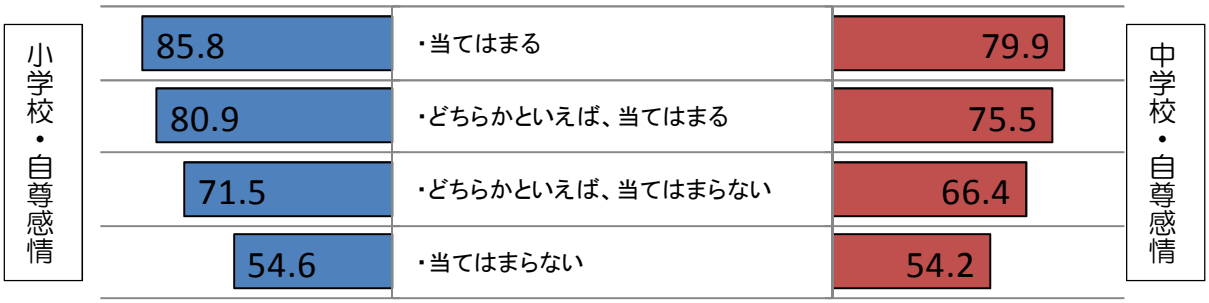
各教科等と総合的な学習の時間とは互いに補い合い、支え合うものです。

出典：「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省（平成２２年１月）

５　「学びに向かう力」をはぐくむ学習習慣の定着
～家庭と連携した学力向上に向けた取組～

【児童生徒質問紙】家で、自分で計画を立てて勉強していますか

★選択肢毎の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合



○学力が低い状況が見られる児童生徒に対して、学力に対する自尊感情を高めるため、家庭と連携した取組を行っていますか？
○家庭での学習状況について、学校と保護者で情報共有をしていますか？

県内には、家庭での学習方法、各学年に応じた家庭での学習時間のめやす、保護者の学習支援の内容等を示した「家庭学習の手引き」等を各家庭に配布して、学習習慣の定着を図る取組を行っている学校もあります。

手引きの活用にあたっては、以下の２点が大切です。

家庭学習の手引きの掲載事例
【子どもの学習法】
・ひらがなの練習
・国語辞典で言葉の意味調べをする
【家庭での学習支援】
・事前に学習内容を知らせ、例えば小学校で「乗り物」という教材をするなら、家庭でも乗り物に関連した会話をする等、子どもの学習内容に保護者の興味関心を高める工夫をする。
【学習内容】
・学習計画や単元の内容
・教科書に書かれている内容を正確に読み取る 等

・学校での学習と家庭での学習の関連性を明確にすること。
・学校は「家庭学習の手引き」を一方的に配布するだけでなく、児童生徒の学習状況の変化等を学校と家庭で共有するための手立てを工夫すること。

①学校と家庭での学びをつなぐ学び方の指導

学習習慣を確立させるため、家庭学習を充実させるための適切な宿題を与えたり、予習・復習の学習方法についてアドバイスを行ったりするなど、学校と家庭での学びをつなぐ学び方の指導が重要です。

適切な学習課題（宿題）と評価

【毎日の課題】（中学校）

①教科ごとに、既習内容の基礎的・基本的な内容について、反復学習により定着を図る。

②毎日、教科ごとに課題を出題し、教科担当・学級担任が点検する。

③点検評価は、教科担当・学級担任が行う。

【週末課題】

①基礎的・基本的な知識・技能を活用するための思考力・判断力・表現力等を養うための課題を週末に出題する。

②点検評価は、教科担当が行う

【週末課題事例】（中学国語）

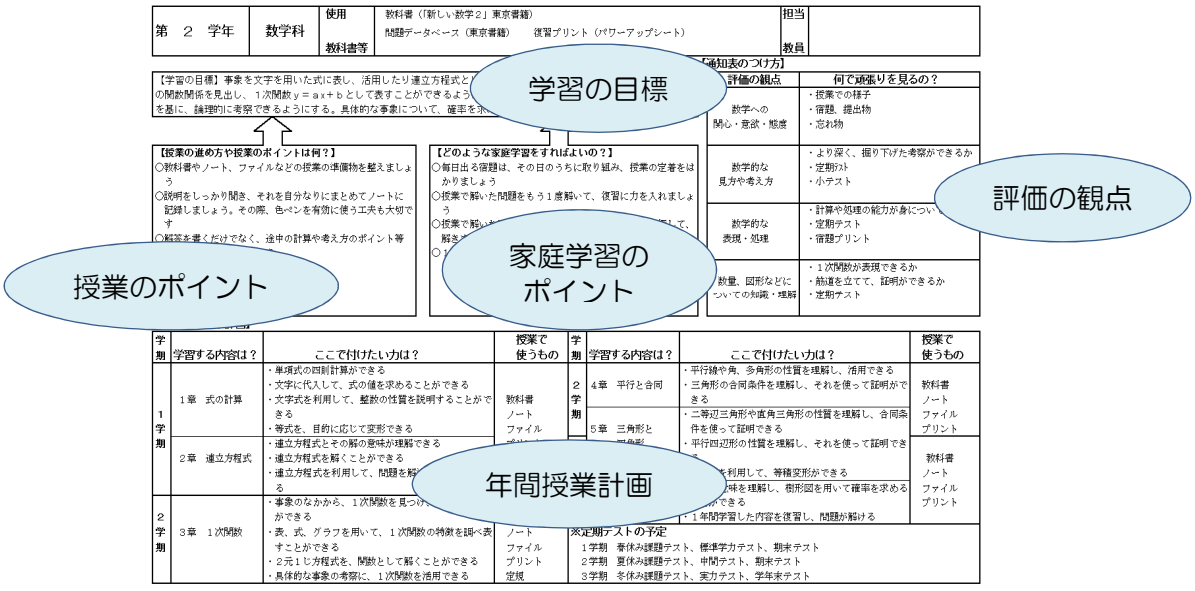
- 特定の「テーマ」をもとにした、まとまった文章を書く。（２００～４００字）
- 「読書タイム」と関連付けて、定期的に感想文を書く。
- 様々な統計グラフから、グラフの読み取りや意見（１００～２００字）を書く。
- 新聞記事の感想を書く。　　等

②家庭と連携した学習習慣の確立

学校で、家庭での勉強方法について話し合う機会を設け、その内容を保護者に情報提供したり、学年・学級だより等で良いノートの例を示して、家庭でノートの点検をお願いしたりするなど、学校と家庭が連携して学び方の指導を行うことが大切です。

県内には、学校の宿題を家庭で点検することで、保護者が児童生徒のつまずきを発見し、学校に伝える取組を進めている学校があります。

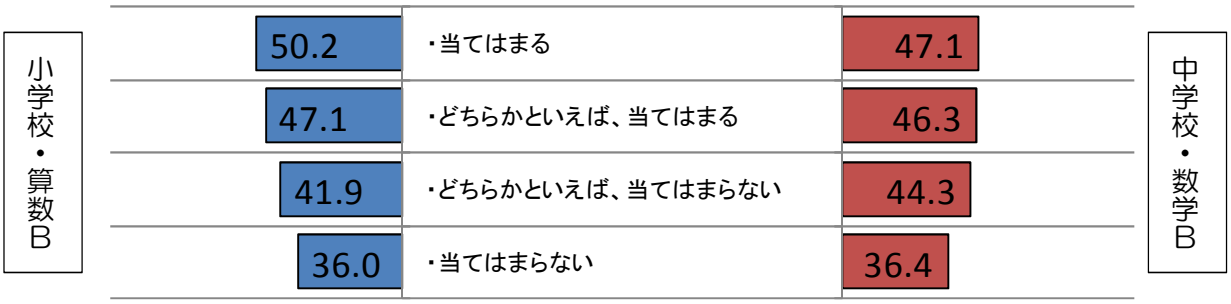
児童生徒の主体的な学習や保護者への説明のために、年間学習計画、授業の進め方、評価の観点等を示したシラバス（下図）を、年度当初に配布している学校もあります。



６　「学びに向かう力」をはぐくむ学習集団の形成
～互いの良さを認め合い、自分の考えを伝えたいと思える集団づくり～

【児童生徒質問紙】学級の友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

★選択肢毎の平均正答率（算数Ｂ・数学Ｂ）



○互いの良さを認め合い、児童生徒のコミュニケーション能力を高める取組を意図的・計画的に進めていますか？
○中学校における学級活動の時間が、進路指導等に偏ったものになっていませんか？

次期学習指導要領においては「学習活動や学校生活の基盤となる学級経営の充実」が改善の方向性として示されています。
学級が一人一人の児童生徒にとって、安心して学べる環境でなければ、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を進めることはできません。

小・中学校を通して、学級活動において、話合い活動を充実させることで、よりよい人間関係を築く力や当面する課題に主体的に関わろうとする態度等を育成することができ、そのことは学習活動の充実につながります。

【話合い活動の充実に向けた指導の工夫】
①主体的に取り組める切実感のある議題やテーマを設定します。
②自分たちの活動として考えることができるように、あらかじめ活動の流れを検討したり、役割分担を決めたりします。
③話し合う内容や方法を明確に示したり、自分の意見を発表しやすくしたりします。

「学びに向かう集団づくり」に向けて

①支持的風土がある学級

児童生徒が失敗や間違いをしても、それを受け入れられる支持的風土がなければ、授業中に分からないことがあっても質問できず、一人一人が安心して学べる環境とは言えません。教育活動全体を通じて、互いを認め、尊重し合う取組を進めることが大切です。

②自治意識の高い学級

班活動、係活動、学校行事等を通して学級への帰属意識が高く、学級活動での話合い活動で合意形成を図り集団決定できている学級は、学習面においても、自分達でよりよい授業にしたいという意識が高い学級です。

例えば、年度当初に決めた学級目標について定期的に話し合うなど、よりよい集団生活づくりに向けて、児童生徒が自治的に取り組む活動を意図的・計画的に実施することが大切です。

③規範意識の高い学級

集団生活や対人関係におけるルールの意義を児童生徒が理解し、自主的に守ろうとする学級づくりが大切です。

そのような学級では、学習の準備、挨拶、姿勢、発表の仕方や話の聞き方、話し合いの仕方などの学習規律も守られ、授業が効率的に進められます。

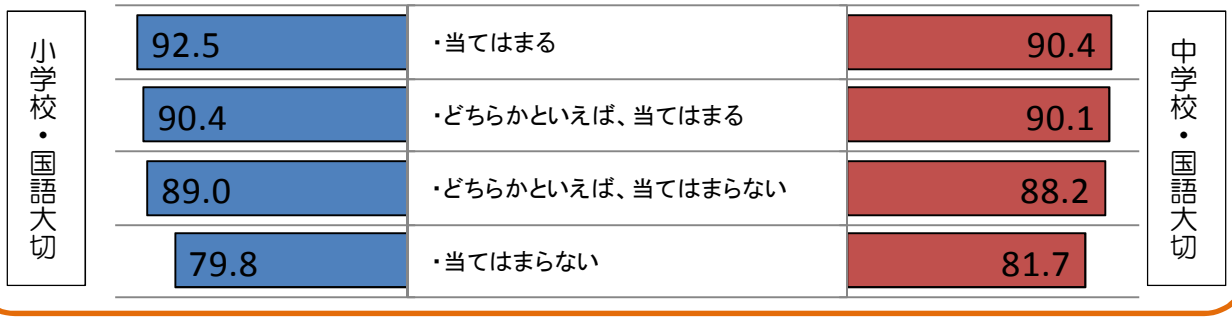
一人一人のコミュニケーション能力の向上をめざして

対話や学び合いのある授業をする際に、授業者の果たす役割は重要です。一斉授業では、児童生徒の発言を受け止め、児童生徒同士をつなぐことで、内容が深まります。また、ペアやグループ学習においては、相手に思いや考えを伝えることが苦手な児童生徒を支援したり、認めたりするなど、目的意識を持って机間指導することが大切です。また、学習形態についても、ペアやグループ学習がしやすいように、コの字型に机を配置するなど、学習のねらいに応じたものに工夫しましょう。

7　「学びに向かう力」をはぐくむ指導体制の確立①
～学ぶ意義や目的を見いだすキャリア教育の充実～

【児童生徒質問紙】将来の夢や目標を持っていますか

★選択肢毎の「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合



○今、勉強している内容が実生活や将来とどのように結び付いているのかを意識させていますか？
○キャリアノートを活用したキャリア教育を実践していますか？

子ども達は、自分が勉強していることと社会との関係を見いだし、結び付けることで、自分が勉強している理由やその重要性が分かってきます。キャリア教育によって、児童生徒が目的意識に裏打ちされた学習意欲を持つことで、将来にわたって学び続ける姿勢をはぐくむことができます。

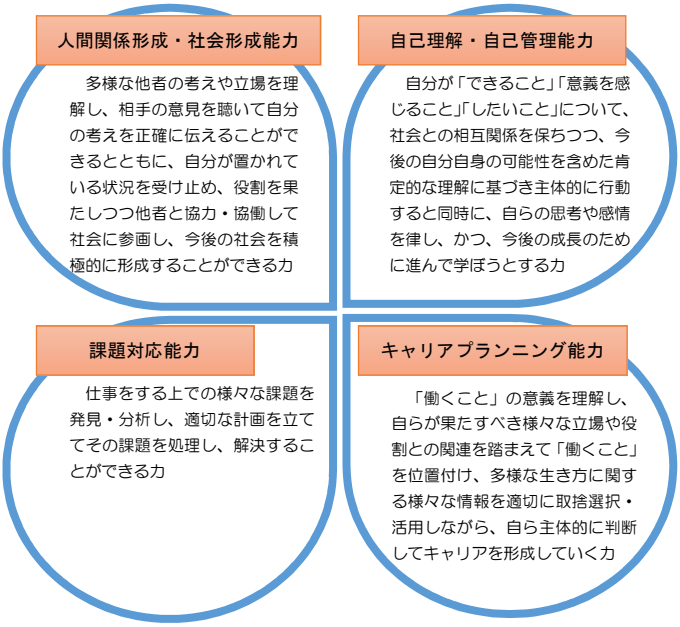
キャリア教育とは、子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力をはぐくむ教育です。この視点に立って、学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、日々の教育活動を展開することがキャリア教育の実践の姿です。

キャリア教育を通して育てる「基礎的・汎用的能力」（右図）は、それぞれが独立したものではありません。

例えば、右図を１枚の布の上に表したとすると、課題対応能力をつまみ上げると、他の能力も一緒に上がってきます。

このように、４つの能力は相互に関連・依存した関係にあります。

このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての児童生徒が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものでは、ありません。



キャリアノートモデル

本県では、平成 27 年２月にキャリアノートモデルと教師用指導資料を作成しました。

キャリアノートは、キャリア発達を促す様々な学習経験や活動の記録などを児童生徒自身が書き込むノートです。

このノートは、教職員が児童生徒の成長や変化を定性的に評価し、一人一人の指導・支援に役立てるための重要な資料とすることができます。

キャリアノートモデル

キャリア教師用指導資料

キャリアノートモデルと教師用指導資料は、義務教育課ホームページから、ダウンロードできます。
（http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/career/career.htm）

兵庫型「体験教育」と関連付けたキャリア教育

兵庫型「体験教育」と関連付けて、発達段階に応じたキャリア教育を推進することが大切です。

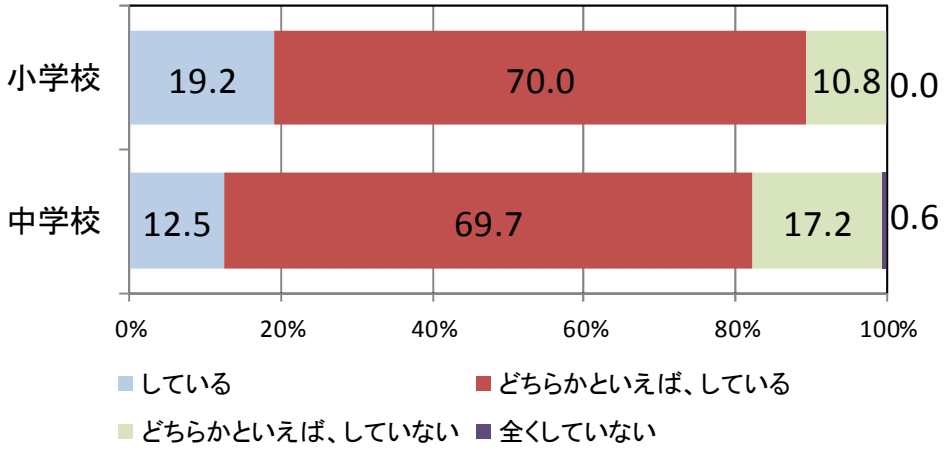
教師用指導資料には、キャリア教育の概念や兵庫型「体験教育」との関連等を掲載しています。

	キャリア教育の視点	キャリア教育推進のポイント	体験活動の効果的な活用
中学校	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業 地域の一員として自覚させるとともに、将来の生き方、進路を考えさせる。 青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～ 本物の演奏にふれることで豊かな情操を育むとともに職業の一つとして音楽を意識させる。	○社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等を考えさせ、今、自分が取り組むべきことへの目標を立てさせ、計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く。	○まちづくりへの提案等社会への参加を体験する学習。 ○ある職業や仕事をきっかけとして、職業や仕事を知る。 ○トライやる・ウィークで、地域や社会と関わることで社会の現実にふれる。 ○体験後の振り返りの機会の確保。
小学校	自然学校推進事業 自分の役割や責任を果たすとともに、自分の思考や感情を律し、集団への連帯意識を高めさせる。 環境体験事業 自然との触れ合いにより、命の大切さを実感させるとともに、地域での体験によりふるさと意識を醸成する。	○学校・家庭・地域における自らの役割や、働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大、自己及び他者への積極的関心の形成等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養う。	○体験型の環境学習や宿泊体験活動を通して、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」を理解し行動すること、これらを「学ぶこと」の意欲につなげること。

平成２８年度キャリア教育推進状況調査によると、全ての学年でキャリアノートを使用しているのは、小学校で 60.1%、中学校で 76.0%となっています。キャリアノートが小学校から高等学校までの１２年間をつなぐものとなり、児童生徒が自分自身の変容を実感できるものとなるよう、各学校における取組の充実を期待しています。

８　「学びに向かう力」をはぐくむ指導体制の確立②
～教科横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントの実現～

【学校質問紙】指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。



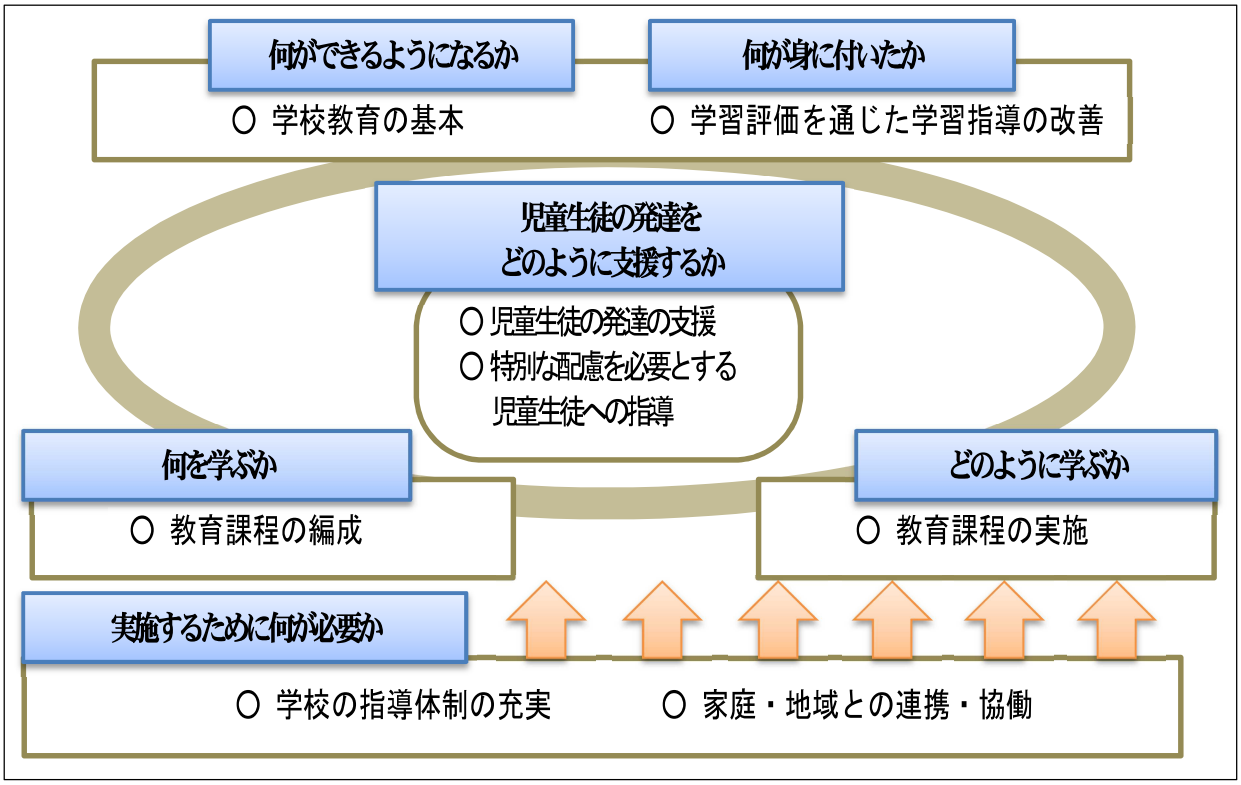
○学校教育目標の実現のために特色ある教育課程が編成できていますか？
○教科横断的な視点で教育内容を配列し、教育課程を実施、評価して、改善を図るＰＤＣＡサイクルは確立できていますか？

各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子ども達の姿や地域の実状等を踏まえて、各学校が設定した学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められています。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」です。今回の学習指導要領の改訂は、各学校が学習指導要領等を手掛かりに、この「カリキュラム・マネジメント」を実現し、学校教育の改善・充実の好循環を生み出していくことを目指すものであるといえます。

「カリキュラム・マネジメント」における三つの側面

○各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
○教育内容の質の向上に向けて、子ども達の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立すること。
○教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

「カリキュラム・マネジメント」のイメージ



「カリキュラム・マネジメント」の確立に向けたＰＤＣＡサイクルの例

P

○子ども達の姿や地域の現状等を把握できる調査結果や各種データに基づき、学校教育目標を設定し、子ども達に身に付けさせたい資質・能力の明確化
○学校教育目標の実現、資質・能力を育成するための教育課程の編成（教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列）

D

○教科等間のつながりを捉えた学習の推進
○教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部資源も含めて活用しながら、効果的に組み合わせて実施

C

○学校評価（教職員、児童生徒、保護者、地域）の分析
○全国学力・学習状況調査の正答率、児童生徒質問紙の分析
○地域の現状等が分かるデータの収集・分析　等

A

○分析結果等を踏まえて学校教育目標や子ども達に身に付けさせたい資質・能力について、次年度の方向性を検討
○教科横断的な視点での教育内容の充実を検討

Ⅳ　「学びに向かう力」をはぐくむ授業実践

1　小学校国語

① 学年・単元名（教材名）

第４学年　「読んで考えたことを話し合おう」（『ごんぎつね』（光村図書４下））

② 授業展開

〈ねらい〉　登場人物の行動や情景をもとに、ごんの気持ちの変化を読み取る。

児童が主体的に課題解決を図るための工夫

〈目的意識を高めるための学習問題づくり〉

【以下の取組を家庭学習で行っておく】
- 次に学習する場面について、ごんの気持ちや行動が分かる文に線を引く。
- その中で、一番気持ちが強く表れている所や大きく気持ちが変わっている所を一つ選ぶ。

(1)家庭学習をもとに、クラス全体で学習問題を設定する。 → めあてをつかむ

- なぜ、こんなことをした（言った）のだろう。
- ～とは、どういう意味なのだろう。
- この気持ちはどのくらい大きいのか。　など

(2)文章の内容を手掛かりに、学習問題について自分なりに考える。 → 自分の考えを持つ

(3)考えたことを発表し合い、クラス全体で深めていく。

① 各自の考えを出し合う。
② 「ごんの気持ち」「兵十の気持ち」「情景・行動」等の視点を示し、出された意見を整理する。
③ 整理した意見をもとに、これまでの場面と関連付けながら、ごんの気持ちの変化について話し合う。
④ 話し合いをもとに、学習問題に対して最初に自分が考えたことに加筆する。

→ 話し合いを通して読みを深める

(4)この時間の学習で分かったこと、感じたこと、楽しかったことを書く。

児童の様子

学習問題を自分たちで考えるというのは、難しいけど面白かったです。自分たちで考えたので、いつも以上に「ごんの気持ちを考えてみたい」と思いました。

はじめ、友達と自分とは意見が違っていると思いました。でも、話し合ううちに、ごんの気持ちが兵十に近づいているところが同じだと分かりました。それが楽しかったです。

○学びに向かう力の育成に向けた指導のポイント

学習問題を設定するときには、子ども達から出された意見を尊重し、子ども達自身のこととして主体的に取り組めるようにする。

※設定した学習問題が、授業者の考えていた内容と異なっている場合は、発問等を工夫し、全体の話し合いの中で、本時のねらいに向かって読みを深められるようにする。

２　小学校算数

① **学年・単元名（教材名）**

第４学年　わり算の筆算（単元のまとめ）

② **授業展開**

〈ねらい〉　きまりのあるわり算の筆算を解く活動を通して、思考力・表現力を育む。

解きたい！書きたい！が生まれる場面づくり

〈きまりを発見する場面〉

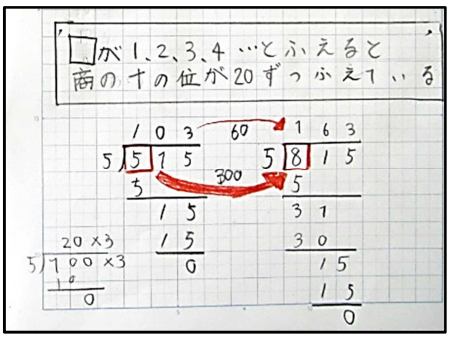
- 学習内容の定着を図る場面で、商にきまりがある問題を提示する。（□15÷5＝？）
- □に１，２，３…数を入れて計算させる。
- 気づいたことをペアや全体で対話させる。
- きまりを発見することで、次の計算問題を解く意欲を引き出す。
- 商が２３，４３，６３と２０ずつ規則的に増えていくことに気付かせる。
- □に１，２，３…と数を入れていくと、商が２０ずつ増えていく理由を考えさせる。

〈思考を表現する場面〉

- １００÷５＝２０を根拠とし、きまりの理由をノートに書く時間を設ける。
- 思考過程をノートに書き表すとき、文字や図、矢印などの記号などを使って、わかりやすく整理させる。
- ペアや全体で説明する活動を通して、多様な考え方を知り、自分の考えを振り返らせる。
- 学習内容を整理したり、まとめたりさせる。

児童の様子

- □15÷5 の□に１，２，３…数を入れて計算していくと、商が２０ずつ増えていくことに驚き、次の問題も「解きたい！」と意欲的に取り組む姿勢が見られた。
- 商が２０ずつ増えていく理由を考える場面では、自分が発見したきまりを「書きたい！」と文字や図、矢印などの記号などを使って、意欲的にわかりやすくノートに書きまとめることができた。
- わかったことを共有する場面では、多様な考え方を知ることで、自分と他者との考えのズレを感じ、そこから学びを深めることができた。



○学びに向かう力の育成に向けた指導のポイント

- 「解きたい！」と思うような問題（数値）を提示し、帰納的に思考する場面を作る。
- 思考過程をノートに文字や図、矢印などの記号で表現する場面を作る。
- ペアや全体で説明する活動を通して、多様な考え方を知り、学びを深める場面を作る。

３　中学校国語

①　学年・単元名（教材名）

第１学年　『ちょっと立ち止まって』　（光村図書１年）

②　授業展開

〈ねらい〉　段落どうしの関係に着目して、文章の構成をとらえる。
筆者の考えをもとに、自分のものの見方や考え方を広げる。

生徒が主体的に課題解決を図るための工夫

「リーフレットの作成」という学習課題を設定することで、相手意識を持ちながら、学習したことを活用してより深く読もうとする意欲を高め、主体的な課題解決につなげる。

〈単元計画〉（全５時間）

第１次　全文を通読し、単元の学習計画を立てる。（１時間）
第２次　本文と図の対応に着目しながら、文章の構成や内容をつかむ。（１時間）
第３次　筆者の考えの中心となる大切な情報を選択・整理して要約文を書く。（１時間）
第４次　『ちょっと立ち止まって』の魅力を紹介するリーフレットを作成する。（１時間）
第５次　リーフレットを読み合い、より魅力を伝える内容にするために推敲する。（１時間）

〈展開例（第５次）〉

（1）学習課題を確認する。　→ めあてをつかむ

（2）推敲の観点を確認する
＊見方を変えることで伝わり方が変わることの面白さや新鮮さが伝えられているか。
＊表現の特徴や論の展開の魅力が伝えられているか。
＊筆者の考えに対する自分の考えを述べているか。

（3）リーフレットをグループで読み合い、「良い点」と「改善が必要な点」について話し合う。　→ ペアやグループで話し合う

（4）話し合いをもとに、各自のリーフレットを推敲する　→ 話し合いを自らの学びに生かす

（5）本時の学習を振り返り、次時の課題をつかむ。

生徒の様子

勉強したことを使ってリーフレットを作成したので、表現の工夫や筆者の考えについて深く考えることができました。

自分が作ったリーフレットと友達のリーフレットを比べると、表現の特徴の魅力や筆者の考えに対する見方に違いがあり、自分のリーフレットに生かすことができました。

〇学びに向かう力の育成に向けた指導のポイント

・学習したことを活用する言語活動を単元末に取り入れることで、読みを通して分かったことや考えたことを再構成し、より深く考える必然性を生徒に意識させる。
・話し合いの観点を明確にして、グループやペアによる話し合い等の言語活動を行うことで、自分の考えを客観的に見直したり、新たな考えを得たりすることができ、よりよい表現に役立てることができる。

4　中学校数学

①　学年・単元名（教材名）

第２学年　一次関数（一次関数とグラフ）

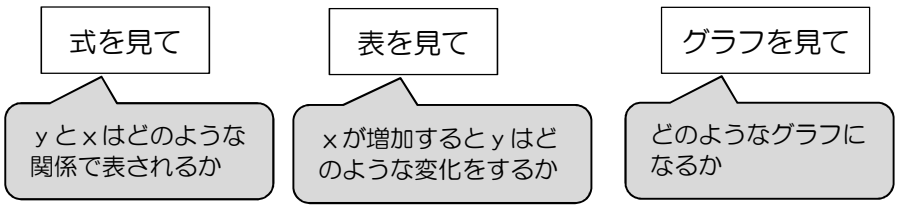
②　授業展開

〈ねらい〉　事象、式、表、グラフを関連付けて関数への理解を深める。

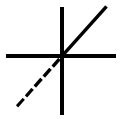
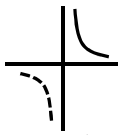
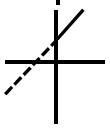
生活と数学を関連付け、「関心・意欲」を高めるための工夫

〈既習事項を振り返り、見通しをもつ〉

○比例、反比例、一次関数の特徴について振り返る。



○比例、反比例、一次関数の事象、式、表、グラフを提示し、それぞれを結びつけさせる。

【事象】	【式】	【表】	【グラフ】
ある液体の量と重さ	$y=ax$	○○○(x)　1　2　3 ○○○(y)　30　60　90	
一定の道のりを進むときの進む速さとかかる時間	$y=\frac{a}{x}$	○○○(x)　1　2　3 ○○○(y)　30　15　10	
鉛筆何本かと消しゴムを１個買うときの鉛筆の本数と代金	$y=ax+b$	○○○(x)　1　2　3 ○○○(y)　110　140　170	

〈学び合いを通して、比例、反比例、一次関数の各関係についての理解を深める〉

○個人思考を行う。

・比例、反比例、一次関数のうち、どれか１つの関係を選び、その事象を考える。

・値の変化などをヒントに事象を考えてみる。

・どうしてその関係になるのかを、式、表、グラフで説明できるようにする。

○同じ関係を考えた者でグループを作り、交流する。

・個人思考によって、考えられた事象をお互いに出し合う。

・式や表などから、出し合った事象が、その関係を表しているものかどうかを確認する。

・さらに別の事象が考えられないかを話し合わせる。

○グループで自分たちの考えを具体例を通して全体に広める。

・どうしてそうなるのかを表や値の変化、グラフなどを用いて説明する。

○自分が担当していない関係について考える。

・他に例がないかを考える。

○学びに向かう力の育成に向けた指導のポイント

・できるだけ多くの例を挙げさせることで、関数のイメージを深めさせる。

・他の人と協力して考え、同じような考えでも認め合うことで、考えようとする意欲を高める。

Ⅴ　「学びに向かう力」をはぐくむ指導体制

1　小学校における取組例①

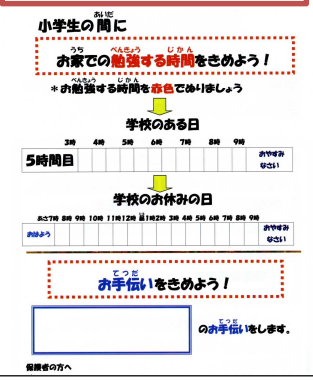
家庭と連携した学習習慣の確立

① 概要と取組内容

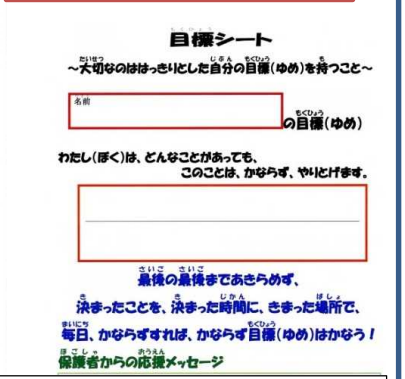
書き込み式家庭学習の手引き「学びのすすめ」を作成し、児童への意識付けを図るとともに、家庭との連携を図り、家庭学習習慣の確立を啓発している。

- 「学びのすすめ」に、宿題の取組状況を記録できる欄を設け、年度のはじめに宿題の取り組み方について記入させる。記入後、持ち帰らせ、家の人にコメントを記入してもらう。学年ごとに、学習内容や、家庭学習の取り組み方の項目を設ける。
- 年度初めの家庭訪問や学級懇談会で、児童の記入した手引きをもとに、１年間の学習内容を知らせたり、家庭での声掛けをお願いしたりする。
- 月ごと、学期ごとなど、児童自身に取組を振り返らせ、今後の家庭学習への意欲などを書かせる機会を設ける。
- 学年が上がるごとに、その学年の内容をキャリアノートに追加し、９年間に渡って保存・活用させていくことで、小学校での取組を踏まえた指導や声掛けを中学校で行い、家庭学習習慣の継続や向上につなげる。

学習時間を決める

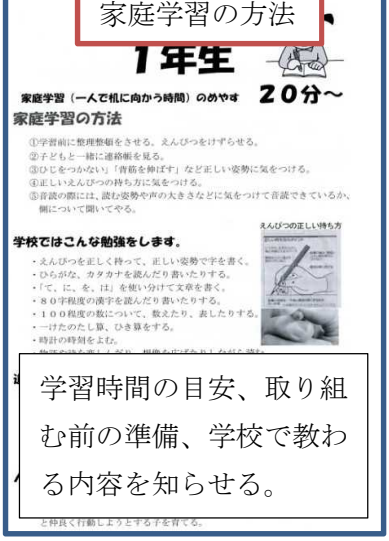


目標設定・保護者より



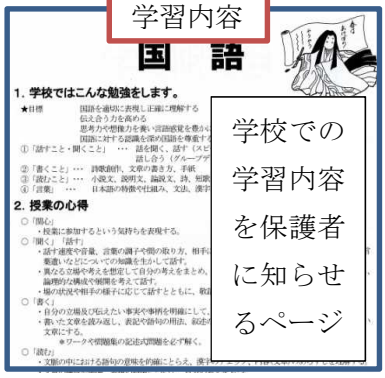
「学校から帰ってからの過ごし方」「学校が休みの日の過ごし方」について児童自身に書かせ、意識付けを図る。

家庭学習の方法



学習時間の目安、取り組む前の準備、学校で教わる内容を知らせる。

学習内容



学校での学習内容を保護者に知らせるページ

② 成果

児童や保護者に「学びのすすめ」の取組が認知され、定着してきた。手引きを活用して教員や保護者からの声掛けを継続的にしていくことで、家庭学習習慣の改善につながった。

引き続き、家庭学習への意識の低い児童への声掛けを行うとともに、各家庭に周知を図っていく。

小学校における取組例②

板書を手がかりにした「分かる授業」づくり

① 概　要

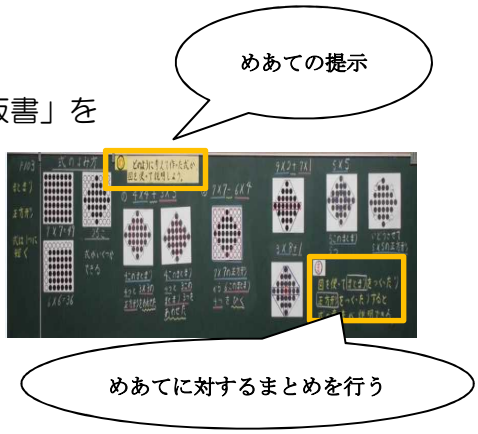
「分かる授業」に向け、「学習の流れが分かる」「思考の流れが分かる」板書づくりに全校で取り組んでいる。

② 取組内容

以下の内容について、共通理解事項として取り組んでいる。

- 「めあて」「学習課題」を提示する。
- 「まとめ」は「めあて」「学習課題」に対応させる。
- 児童の思考の流れがわかるようにする。

（例）矢印、線などの記号を使う。
ホワイトボードを活用し、「児童がつくる板書」を心がける。



③ 成　果

参観日や授業研究の板書記録をもとに、②の取組状況を「研究推進委員会」で出し合い、重点的に取り組む内容や、改善すべき取組内容を話し合うことで、学校全体で共通理解することができた。

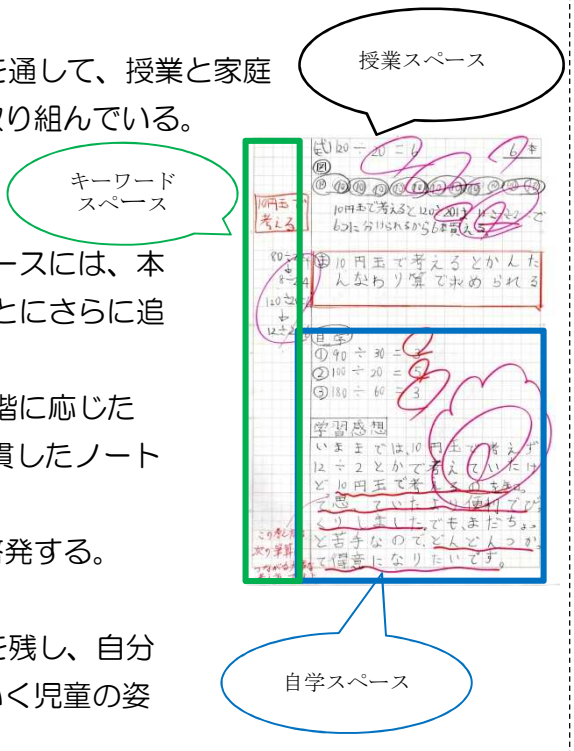
自ら学習する力を育てるノート指導の確立

① 概　要

３つのスペースの機能をもつノート指導を通して、授業と家庭学習を結び付け、学習習慣の確立に全校で取り組んでいる。

② 取組内容

- ノートの機能について共通理解を図る。
  見開き２ページを基本として、自学スペースには、本時の復習問題や学習中に抱いた疑問をもとにさらに追究したいことを家庭学習の時に書く。
- 「校内研究推進委員会」で低中高と発達段階に応じたノート指導について話し合うことで、一貫したノート指導を確立する。
- よいノート例を、校内の掲示板に貼り、啓発する。



③ 成　果

板書を写すだけのノートから、思考過程を残し、自分なりのまとめをし、さらに家庭で追究していく児童の姿が、高学年で見られるようになってきた。

2　中学校における取組例①

家庭での自主的な学習習慣の確立

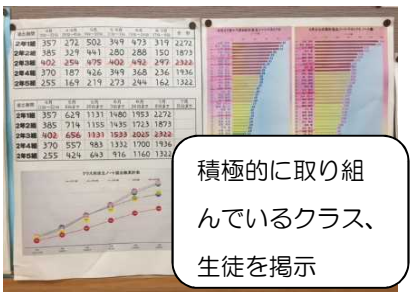
① 概　要

家庭での学習習慣を定着させるために、学年全体の取組として、毎日、自主学習ノートの提出状況を集計し、月ごとに生徒へ提示している。また、定期考査前の部活停止期間を利用して、放課後に学習会を開いている。

② 取組内容

その１　自主学習ノートのチェック

・朝、生徒が自主学習ノートを教科ごとに提出する。
・ＳＨＲ前に、各生徒のノートの提出状況をチェックする。（教科、冊数）
・集計結果から、月ごとに、個人、クラス単位で表彰し、生徒の意欲を喚起する。



積極的に取り組んでいるクラス、生徒を掲示

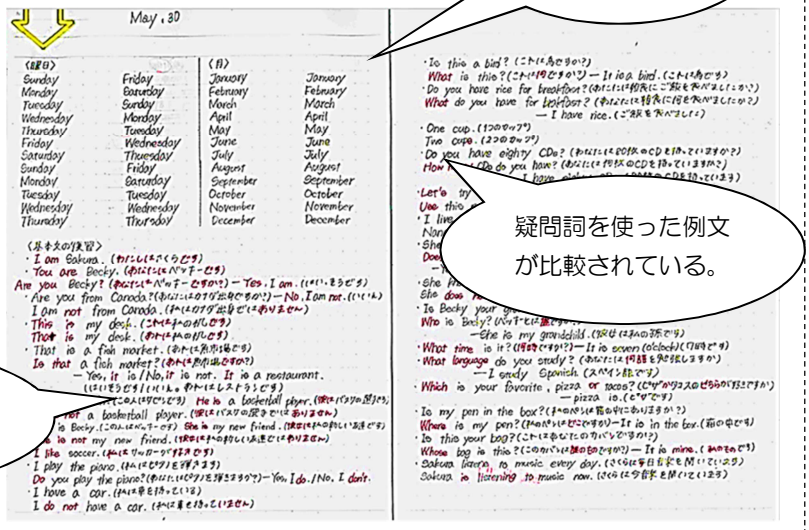
その２　定期考査前の学習会

定期考査前の放課後、生徒が学びたい教科の教室を訪れ、教科担当に質問をしたり学習方法に対するアドバイスを受けたりする。学習内容を理解させることで、生徒に自信を持たせたり、家庭での学習方法を指導したりすることで、家庭学習を習慣化させることを目的としている。自主学習ノートを利用した学習方法についても、見本を提示してアドバイスを行っている。

③ 成　果

集計表を見れば、どの生徒がどの教科の学習に力を入れているか把握しやすくなり、生徒に対して声掛けがしやすくなる。努力している生徒を伝えることが刺激となり、生徒の意欲を高めることができている。

考査前の学習会では自主学習ノートの利用方法を含め、学習の方法を指導することができ、家庭学習への意欲喚起につながっている。



単語の練習ができている。

疑問詞を使った例文が比較されている。

英語と日本語を対比して色分けができている。

中学校における取組例②

「なりたい自分」になるための授業づくり

① 概　要

児童生徒自らが課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の視点から、指導方法の工夫・改善に取り組んでいる。組織的、計画的な取組により、学習効果をあげる。

② 取組内容

本市では、「なりたい自分」になるために自分の可能性を自覚できる、楽しくて魅力的な授業の創造に取り組んでいる。そのために市内の全小中学校で、右に示す授業における５つの「徹底・継続」実践事項を授業に取り入れ、授業の質的向上、プロセスを重視した深い学びの構築を図っている。

1 めあて・学習課題を提示する
2 考えを発表する場を設ける
3 話し合う活動（ペア・グループ・全体）の場面を設ける
4 書く活動・活用する場面を設ける
5 振り返りの活動を行う

③ 成　果

グループで話し合う活動の場面を設けたことで、全体の場では発表をためらう生徒が、生き生きと自分の考えを表現し、他の生徒もそれをうなずきながら聞いている場面が増えた。めあて・学習課題の提示、振り返りの活動について、教員主導で進めるだけでなく、生徒が自分の言葉で表現することにより、さらに主体的な学習活動になり、授業の質的改善につながる。「どのようにして教えるか」から「どのようにして学ばせるか」への意識転換が重要である。

「相互授業参観強化月間」の実施

① 概　要

教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列した教育課程を編成する。その教育課程を実施し評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立することにより、さらに効果をあげることができる。そのためには教師が他教科の教育内容、授業について理解することが必要である。

② 取組内容

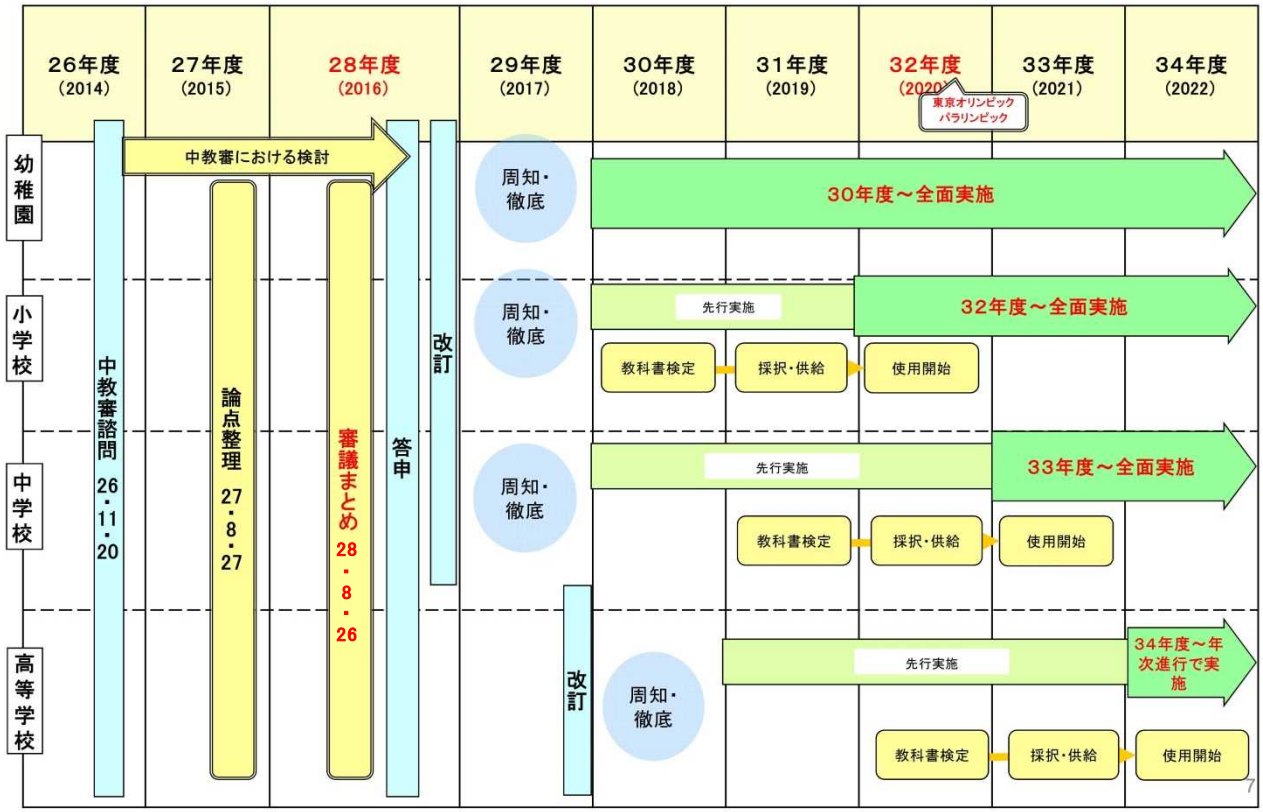
児童生徒の資質・能力の育成のためには、指導についてだけでなく、カリキュラムについての意識転換も必要である。中学校では同じ学校内でも、他教科の授業を参観する機会は少ない。年間指導計画、学習指導案等を見るだけでなく、実際の授業を参観することにより、教科横断的な視点で教育内容を理解することができる。本校では、年２回「相互授業参観強化月間」を設定し、全教職員が他教科の授業にも積極的に参観に行く機会を設けている。また研究授業の事後研修会にも教科の枠を越えて参加している。

③ 成　果

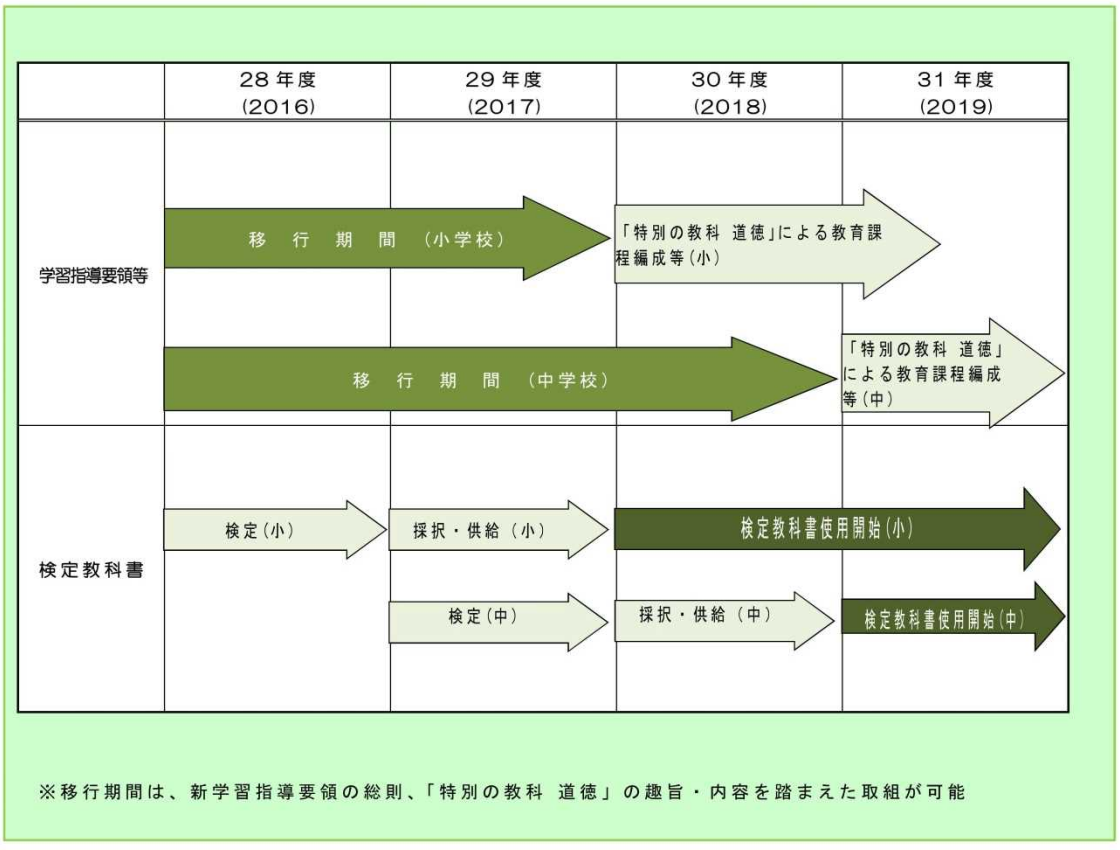
教科、学年の枠を越え、互いに授業を参観することで、各教科等の教育内容を相互の関係で捉えることができる。「相互授業参観強化月間」を設定することで、授業を参観し合うことへの抵抗感がなくなり、教職員全体の授業力の向上にもつながった。また、小中連携の観点から、小学校と中学校の教師の協働体制の確立が重要であり、教育効果が期待できる取組であるといえる。

Ⅵ　参考資料

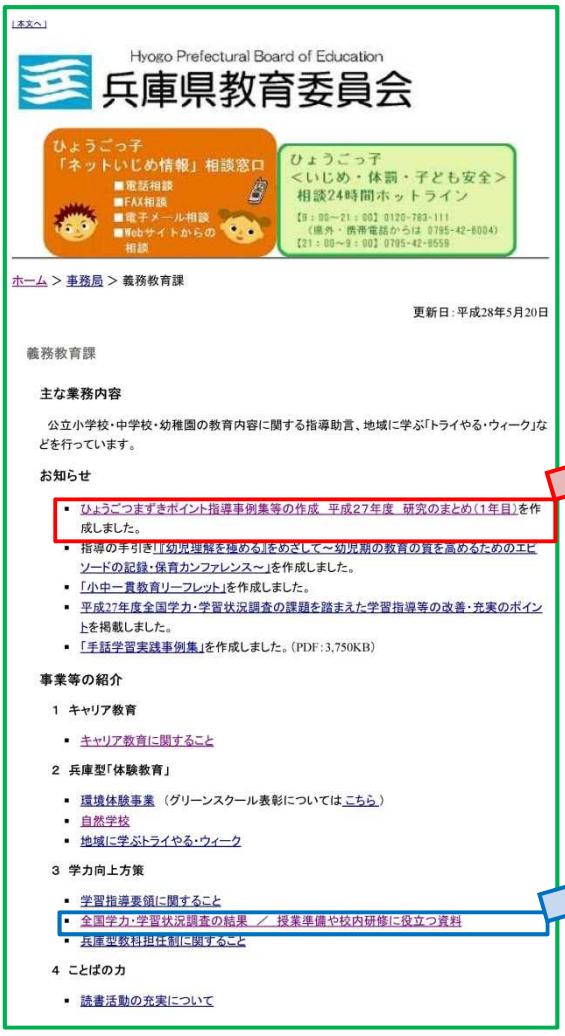
①今後の学習指導要領改訂スケジュール（現地点の進捗を基にしたイメージ）

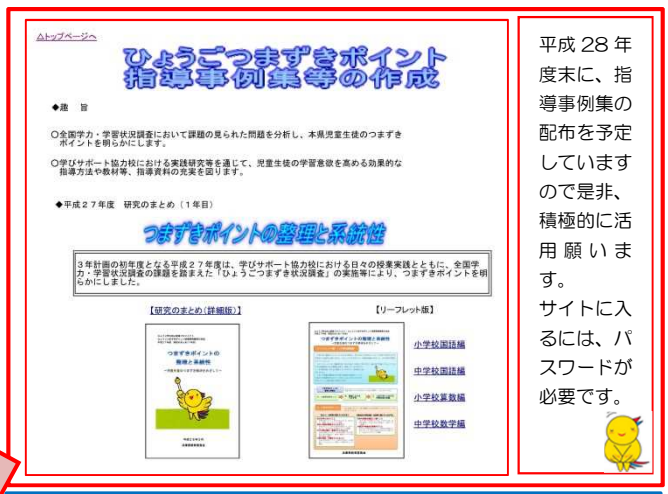


②「特別の教科　道徳」に係る教科化のスケジュール



※義務教育課ホームページでは、各学校における学力向上の取組を支援しています





平成 28 年度末に、指導事例集の配布を予定していますので是非、積極的に活用願います。
サイトに入るには、パスワードが必要です。

全国学力・学習状況調査における課題と改善・充実のポイント（H19～）のページでは、本県が過去の全国学力・学習状況調査のリーフレットで取り上げた問題を一覧にしています。

【小学校国語】

見出し	設問の趣旨	学習指導要領の領域 話す・聞く	書く	読む	言語事項	設問	改善・充実のポイント
インタビューのメモを取る	話の要点を聞き取り、効率よくメモを取ることができるか。	○				H19 A6	
文を構成する	物語の主人公について文で書かれた内容を理解し、文を二文の構成にして書き換えることができるか。			○	○	H19 A5	
話し合いを計画的に進める	司会者として発言者の話を聞き、内容を整理することができるか。	○				H19 B1	
新聞記事を書く（環境問題）	取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての根に読み、その理由を要約することができるか。		○	○		H19 B2三	○
	情報の中から必要な事柄を取り出し、新聞の一部に注意点として書き換えることができるか。		○	○		H19 B2三(1)	
比べて読む（二人の感想文）	二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめることができるか。			○		H19 B3	
漢字を使い分ける	文脈における意味を考えながら、同音異義や同訓異義の漢字を使い分けることができるか。				○	H20 A2二(1)ウ	
段落の内容をとらえる	目的や意図に応じて、段落の内容をとらえることができるか。			○	○	H20 A9一	
聞き方を工夫する（先生へのインタビュー）	話しその意図を考え、反応を示したり、内容を深めたりして聞くことができるか。	○	○			H20 B1二	○
人物や場面の描写をとらえる（絵場十「母グマ子グマ」）	登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読むことができるか。		○	○		H20 B2三	
情報を読み取って書く（図書館だより）	目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確に書くことができるか。		○	○		H20 B3一	
	目的に応じて情報を取り出して、効果的に書くことができるか。		○			H20 B3三(2)	

設問欄をクリックすると、調査問題のページにジャンプするので、すぐに印刷して活用できます。

改善・充実のポイント欄をクリックすると、リーフレットに掲載したポイントが表示されます。

平成 28 年度学力向上実践推進委員会

●学識経験者	委員長	志水　宏吉	大阪大学大学院　教授
	副委員長	吉川　芳則	兵庫教育大学大学院　教授
		佐藤　真	関西学院大学　教授
		岡部　恭幸	神戸大学大学院　教授
		大野　圭一	兵庫教育文化研究所　事務局長
●学校関係者		中畑　尚子	西宮市立大社小学校　校長
		近藤　猛	明石市立大蔵中学校　校長
●国語部会		嶋津　亮志	姫路市立林田小学校　教諭
		静川　直美	洲本市立大野小学校　教諭
		井ノ口敦子	加東市立社中学校　教諭
		小林　敬子	丹波市立氷上中学校　主幹教諭
		岩淺克友希	兵庫県立教育研修所　主任指導主事
●算数・数学部会		久保田健祐	西宮市立広田小学校　教諭
		治郎丸　猛	姫路市立白鷺小学校　教諭
		宿南　恵介	豊岡市立豊岡北中学校　教諭
		植野　優	篠山市立丹南中学校　教諭
		田中　賢司	兵庫県立教育研修所　指導主事

学びを支え高め合う「新はばタン・モデル」

平成２２年度の学力向上リーフレットに掲載した「はばタン・モデル」に次期学習指導要領改訂の趣旨等を反映させました。この「新はばタン・モデル」を、学校全体で学力向上を推進する視点として、積極的にご活用ください。

学びのビジョン

心通い合う学校経営

○学校づくりへの教職員の主体的・協働的な参画
○社会に開かれた教育課程の理念を実現するｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの確立

指導力を高め合う校内組織

○学習や生活の基盤づくりに向け、指導力向上を図る研修の充実
○教職員の高いモラールと相互に学び合う同僚性

安心して共に学び合う学校環境

○認め合い・育ち合う活気に満ちた学年・学級経営
○規律や伝統を重んじ、安心して学べる学校風土

学びのアクション（生徒指導）

人間的なふれあいに基づく生徒指導

○児童生徒理解を深化させ、集団生活における自己の存在感を高める取組
○共感的な人間関係の育成や自己の可能性の開発の援助

豊かな体験を通した心の教育

○自立心、自己肯定感、成就感、規範意識等を育む体験活動
○生命を大切にし、人権を尊重するなど豊かな心を培う取組

兵庫県マスコット　はばタン

学びのアクション（学習指導）

学力や学習状況の把握に基づくきめ細かな学習指導

○全ての学習の共通基盤とする資質・能力の計画的・体系的な育成
○各教科の特質に応じた見方・考え方の育成

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善

○ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの視点からの指導方法の工夫改善
○教える場面と思考・判断・表現させる場面を効果的に設計・関連させた指導

学びのリレーション

学びの連続性を踏まえた校種間連携

○めざす幼児・児童・生徒像、指導観、指導方法等の共有
○ｷｬﾘｱ教育の視点から学習への目的意識を持たせる系統的な指導

参画と協働による地域連携

○教育課程を介した目標の共有
○地域住民の支援・協力を得た開かれた学校づくり
○地域人材・資源・教材を生かした教育活動

信頼関係に基づく保護者連携

○保護者の教育目標や教育活動への理解とﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟに基づく支援
○ＰＴＡ等のﾈｯﾄﾜｰｸを生かした教育活動

編　集　　平成 28 年度学力向上実践推進委員会、兵庫県教育委員会事務局義務教育課
発　行　　兵庫県教育委員会（平成 28 年 12 月）　兵庫県神戸市中央区下山手通５－１０－１